



平成13年度

提 言 書

浜松商工会議所 青年部

目次

まえがき～はままつに、今、必要とされるものは～

テーマ1. 堀留ルネッサンス構想

1. 背景と提言理由	2
2. 堀留ルネッサンス構想について	4
3. 堀留運河と HORIDOME (堀留) タウン	7
4. F-FISH タウンの整備	19
5. 産業観光と“おもてなし”	36
6. 効果と実現に向けて!	40
7. 参考資料	47

テーマ2. 生きがいのある街はままつ

1. 背景と提言理由	56
2. 『魅力ある街』のイメージ	58
3. ふれあいの街づくり	64
4. はたらく歓びの追求	76
5. 混迷の時代を生き抜くために	91

あとがき～私たち一人一人が“はままつ”をつくる～.. 93

《まえがき》

～ “はままつ” に、今、必要とされるものは～

長引く不況で雇用情勢は益々厳しさを増しており企業の倒産や人員整理など、あまりいい話を耳にしません。そして、このような状況はここ一年で急速に加速してきているように思われます。そんな中、私たちはこの状況を打破する為に「魅力のある街はままつの創設」をメインテーマに浜松の活性化を考え「外側から見たはままつの魅力の提言」「内側から見たはままつの提言」ということで浜松を訪れる人に対して、そして浜松に住み、仕事をしている人に対しての魅力を探り調査研究を進めてきました。

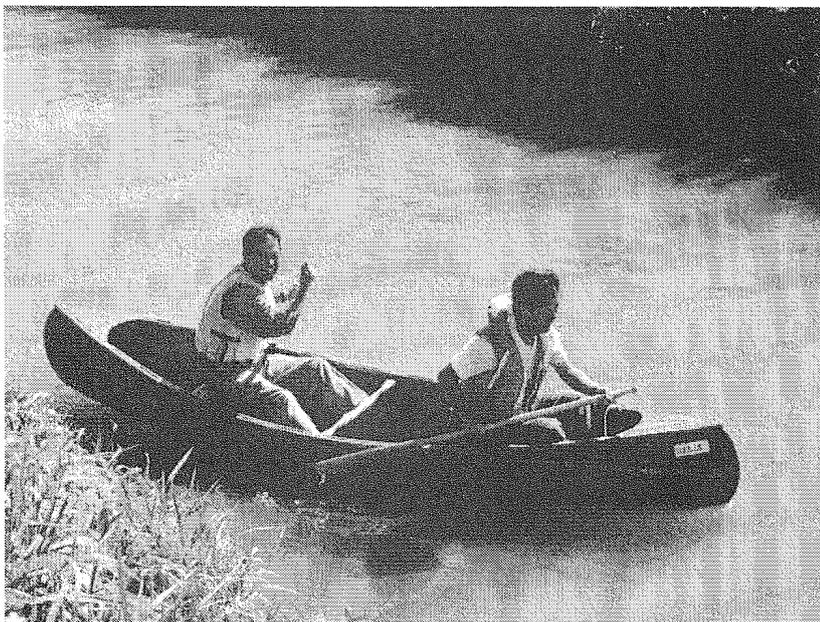
「外側から見たはままつの魅力の提言」では新しい複合的産業観光のあり方と市民の取り組み「堀留運河ルネッサンス構想」を考えてみました。

「内側から見たはままつの魅力の提言」では人と人とのふれあい、仕事への歓びそして未来を託すべく子供たちの教育「生きがいのある街はままつ」を考えてみました。

この一年いろんな方々に出会いお話を伺い各方面のご協力により、ここに提言書を纏めることができました。私たちの一年の成果を是非ご熟読くださるようお願い申し上げます。

テーマ1

堀留運河ルネッサンス構想
～アメージング・イン・はままつ～



背景と提言理由

堀留運河ルネサンス構想について

- 1.堀留運河ルネサンス構想の概要
- 2.堀留運河ルネサンス構想の全体像

堀留運河とHORIDOME（堀留）タウン

- 1.堀留運河とは何か
- 2.今、なぜ、「堀留運河」再生なのか
- 3.堀留運河の現状
- 4.まちの駅『HORIDOME（堀留）タウン』の整備
- 5.活動の担い手「浜松キャナル倶楽部（仮称）」
- 6.市民参加による堀留運河の復元活動

F-FISH タウンの整備

- 1.道の駅『F-FISH タウン』の整備
- 2.浜名湖うなぎ博物館（仮称）の建設
- 3.うなぎ博物館実現のためのアクションプログラム

産業観光と“おもてなし”

- 1.産業観光の推進
- 2.はままつフィルムコミッション（仮称）を市民の手で！
- 3.「もてなしのまち・浜松」の推進に参加

効果と実現に向けて！

- 1.堀留運河ルネサンス構想の効果
- 2.整備手法と担い手
- 3.今後の課題

参考資料

- 1.運河を生かしたまちづくり事例
- 2.うなぎのまち・浜松
- 3.食をテーマにしたまちづくり事例

背景と提言理由

(1)背景

浜松は、これまで繊維・オートバイ・楽器産業を中心に「ものづくりのまち」として歴史を歩んできました。最近ではベンチャー産業も盛んになり、発展しています。

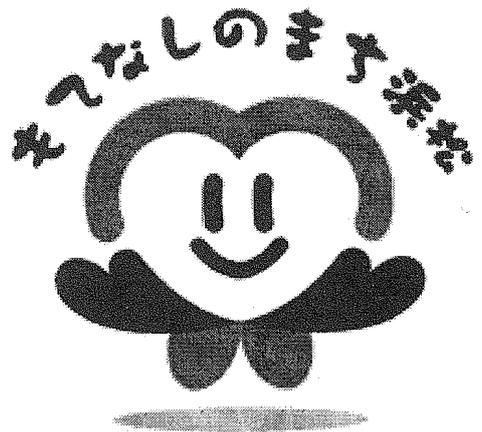
しかし、「もの」はつくるけれど、その「もの」の文化とか、楽しみ方とか、感じ方とかの思い（本質）を伝えてきたのでしょうか。

あえて言うならば、昨年環境庁による【香り100選】に「浜松のうなぎの蒲焼きの香り」が選ばれ、うなぎの食文化でしょうか。

その思いを感じていただくには、なにはともあれ多くの人たちに浜松を訪れてもらわなければなりません。

さて、いよいよ今年の世界サッカーの祭典「2002ワールドカップ」の開催です。静岡県（会場エコパ）でも3試合行われます。また、2003年には「わかふじ国体」、2004年には「しずおか園芸博覧会」が続けて開催されます。

このように、これからは様々な地域・国から多くの人々が浜松を訪れることとなります。この機会に浜松を世界に向けてアピールし、多くの人達を継続的に呼び込むことが重要であります。



また、2001年度は東海道400年祭があり、「みち文化」（街道・川・湖・海・山等の交通軸に育まれた地域文化）を深く考える機会を得ました。道は、人と人・人とまち・まちとまち・物と人・物と物などを結びつき様々な生活・文化・芸術・産業等を交流させ、時代の変化に対応してきました。

(2)提言理由

浜松を外に向けてアピールするにあたり、浜松らしい個性的な魅力を打ち出す必要があります。

具体的に、個性的な魅力には、ものづくりのまちとしての『産業観光』があります。

商工会議所裏を流れる「堀留運河」は昔、物資を運ぶ「水のみち、産業のみち」として地域の熱ある者が拓き、そこに船が往来し、人が集まり活気があったことを知りました。

そこで、この運河という産業遺産を何とか新しい時代に生まれ変わらせよう、そして浜松の再生につながる一助になればと考えました。

さらに、多くの人に浜松と言えば「うなぎ」というイメージが根強くあるため、今一度、美と健康の元気の素『うなぎ』をクローズアップして元気な浜松を推進していきたいと考えました。

そして、「浜松地域」は【日本の東西食文化の融合地】です。浜松は、これからうなぎだけではでなく、食文化の発信地になるべきであると考えます。

21世紀は【大交流時代】。みち文化を通じ、“堀留運河”を再生し、浜松のイメージとして全国に知名度がある“うなぎ”という資源を生かして多くの人々が交流し、「魅力あるまち・浜松」の付加価値となるよう私たちは『堀留運河ルネッサンス構想』を提言します。

そして、「YEGニュービジネス元年、大きな^{変革}も一歩から」のローガンを受け、新しい“もてなしのニュービジネス”を創造し、地域経済の活性化を図るための、事業を模索するものであります。

堀留運河ルネッサンス構想について

1. 堀留運河ルネッサンス構想の概要

(1) 構想のねらい

- エコ・ツーリズムや産業観光のメニューを構築
- 市民参加による地域の魅力創造
- 新しい都市型の観光スポットの創造
- 中心市街地と郊外を結ぶ新たな交通手段の整備
- “もてなしのまち”としてのニュービジネスの創出

(2) 構想の3つの柱

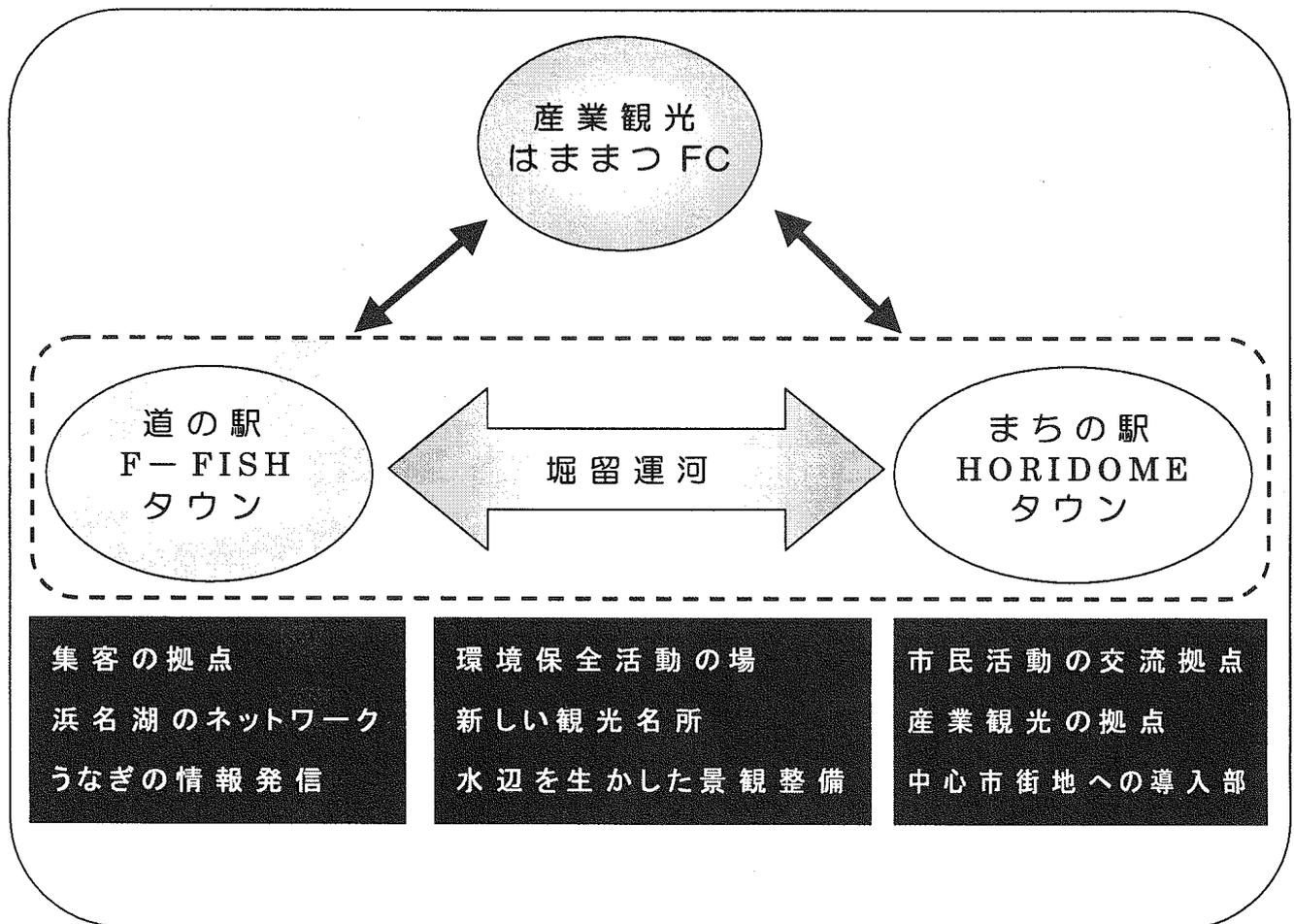
- 堀留運河復元 & HORIDOME（堀留）タウン
市民の運河復元活動による交流拠点を創出する。
- F-FISH タウン & うなぎのまちづくり
堀留運河を生かした水上交通ネットワークを構築するとともに、広域の観光集客拠点を整備する。
- 産業観光ネットワーク & はままつフィルムコミッション
堀留運河を生かした産業観光の推進と“おもてなしのニュービジネス”を創造する。

(3) 構想の概要

運河の復元だけでなく、運河や川の軸線上に、市民活動の拠点「HORIDOME（堀留）タウン」と広域観光の拠点「F-FISH タウン」の2つの拠点を設け、そこを運河によって結びます。

また、2つの拠点を運河で結び浜松地域の産業観光のネットワークをつくるとともに、フィルムコミッションなど新しくもてなしのまちのニュービジネスを創出します。

< 堀留運河ルネッサンス構想の概要 >



堀留運河とHORIDOMEタウン

1. 堀留運河とは何か

- ◆ 浜名湖の東西を結んだ交通軸
- ◆ 地域経済の発展に貢献した交易の道

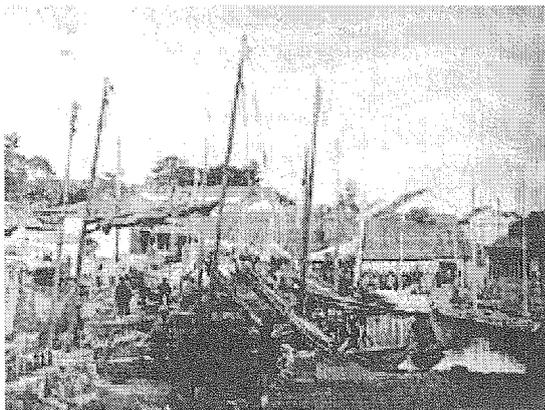
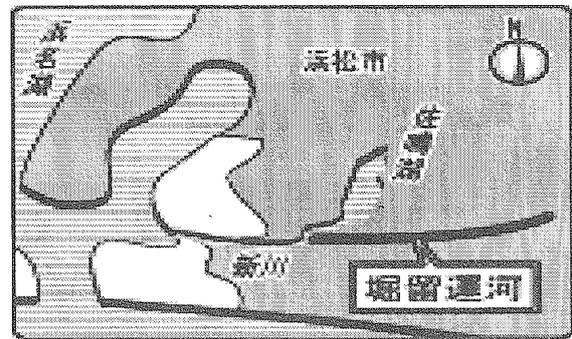
堀留運河は、明治4年（1871年）に東三河、名古屋方面への旅客及び荷物の輸送を目的に開削されました。

この運河は、旧東海道の上新町（現・菅原町）から佐鳴湖の新川との合流点までの約1.5キロで、幅は7mです。

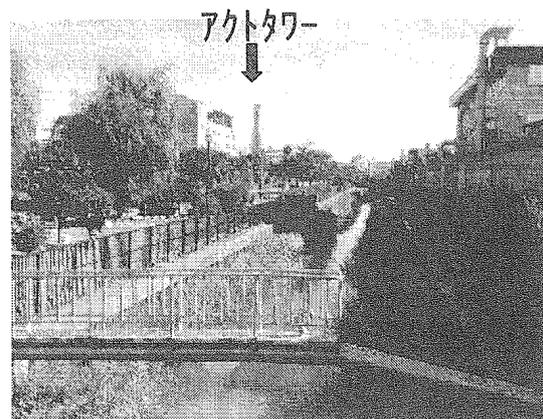
堀留運河は、浜名湖西岸の新所（湖西市）まで和船が日に4往復し、生活必需品を運び、東西の交易に寄与しました。

当時、菅原町には荷物を保管する倉庫が建ち並び、幾隻もの船が停泊し、活気に満ち溢れていました。

ところが、堀留運河も明治22年（1889年）の東海道線開通のあおりで、船交通も急速に衰え、今では、かつての面影はなくなってしまいました。



▲ 和船が停泊していた船たまり
（現サンピア東側付近）



▲ 現在の堀留運河
（水深が浅く、汚れている）

2. 今、なぜ、「堀留運河」再生なのか

(1)東海道400年祭と浜名湖のみち

- ◆2001年は東海道400年祭の年、“みち”をテーマに地域の文化を見つめ直し新しい交流のきっかけとする
- ◆浜名湖のみちと言えば「堀留運河」

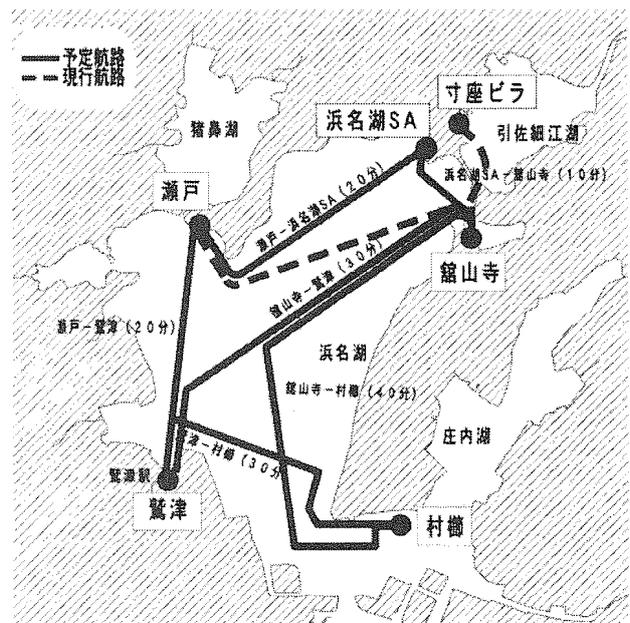
※東海道400年祭は、道や街道の歴史・文化を見つめ直し、地域の魅力づくりに取り組むきっかけにするイベントです。

(2)国際園芸博と湖上交通の構想

- ◆国際園芸博を契機に浜名湖の湖上交通の構想が浮上
- ◆浜名湖の水上交通を楽しむ魅力＝堀留運河の水上交通を付加

①湖の駅構想

「湖の駅」構想は、国際園芸博覧会開催を契機に、かつての浜名湖巡航船（定期航路）を復活し、湖西市鷺津・舘山寺・浜名湖SA・三ヶ日町瀬戸・国際園芸博会場を湖上交通で結ぶものであります。



②水上タクシー構想

▲湖の駅構想の予定航路（静岡県 HP）

新居町、舞阪町、雄踏町の3町と浜名漁協は、国際園芸博に遊船を活用して、「船旅」を楽しみながら会場へ向う水上交通「水上タクシー

構想」を提唱しています。

浜名湖の湖上交通の動きに併せて、堀留運河の水上交通の復活を考
えるべきであります。

(3)もてなしのまちの産業観光

- ◆堀留運河は近代産業遺産
- ◆産業観光として堀留運河を復活

浜松は、農業・漁業・工業などのものづくりだけでなく、東海道の
人とモノが行き交うことによって栄えてきました。

明治の時代に、人・もの・情報の交流を活性化させるために先達が
拓いた「堀留運河」も近代産業遺産と言えます。

21世紀の大交流時代に向け、浜松の産業観光のメニューとして、こ
の堀留運河を市民の力で再生させることは、「もてなしのまち」に魅力
を付加するとともに、たいへん意義あることと考えます。

3. 堀留運河の現状

- ◆水質は、浜松の発展とともに悪化
- ◆運河の機能回復には、浚渫が必要
- ◆河川整備と併せて「堀留運河」を再生

①水質

堀留運河の水質は、沿岸の生活雑排水や工業排水、及びごみの流出等により、悪化しており、水環境の改善には、流域住民の意識改革や水質浄化のための対策が求められます。

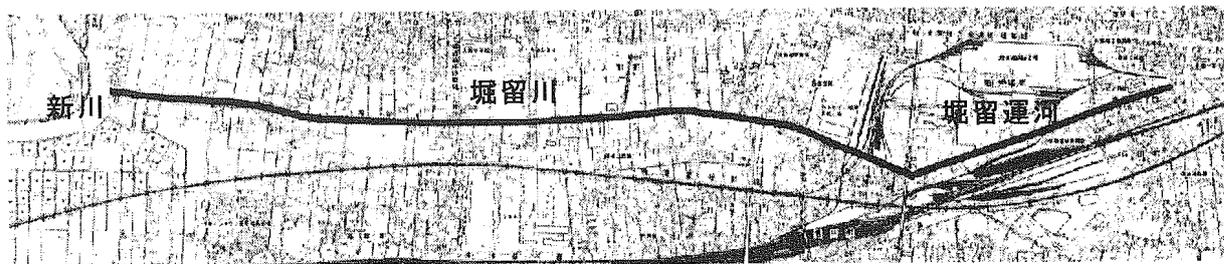
②運河の水深

堀留運河は、かつては和船が往来していましたが、1889年に船の運航が廃止されてから100年以上も経過したため、堆砂等により水深も浅く、現状では船の運航は不可能であります。

したがって、堀留運河を再生させるためには、浚渫や水門の調整等によって喫水の確保が必要であります。

③河川整備の計画

堀留運河（堀留川）は、静岡県が管理する河川であり、洪水調整など防災機能を果たすことを目的に平成18年度を目標に、堀留川の河川整備が予定されているようです。

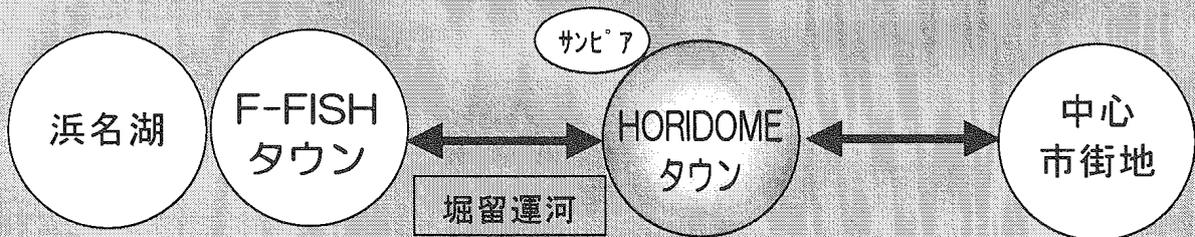


そこで堀留川の河川整備は、機能回復だけでなく、市民の憩いの場、そして産業遺産として復元し、観光客も呼び込める場所として再生させる絶好のチャンスであると考えます。

4. まちの駅『HORIDOME (堀留) タウン』の整備

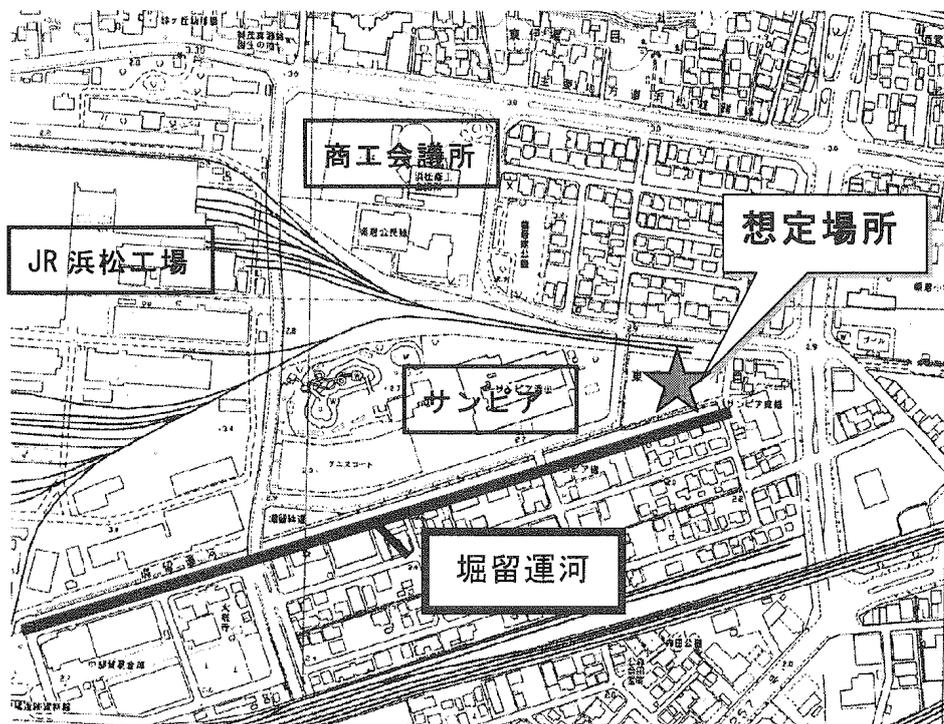
(1) 目的

- ◆堀留運河復元活動の拠点づくり（チャンネル倶楽部）
- ◆都市型観光（産業観光を含む）のメニュー創造
- ◆サンピアの持つ健康増進機能の充実
- ◆中心市街地と浜名湖を結ぶ結節点の整備

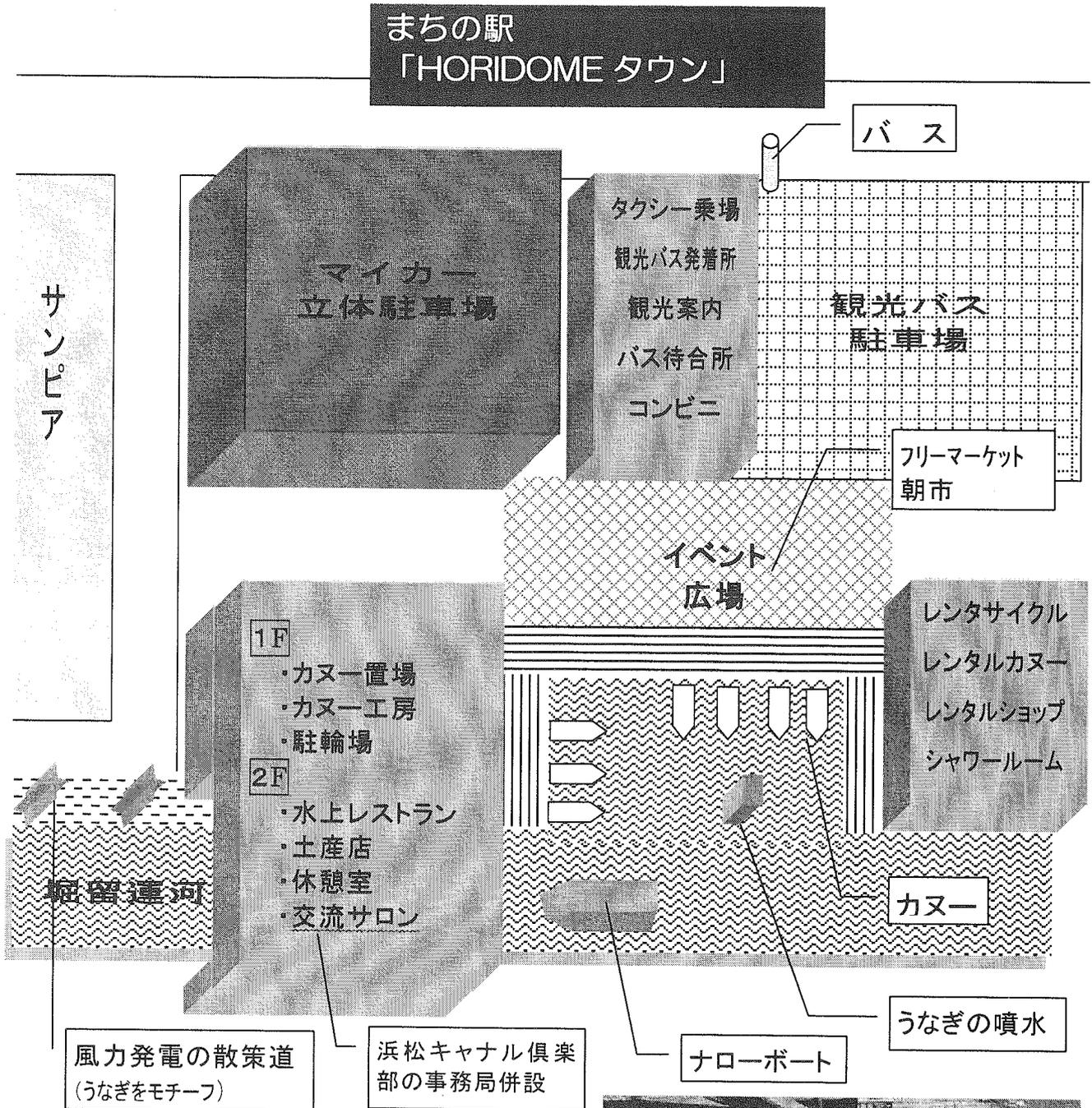


(2) 想定場所

HORIDOME タウンは、堀留運河の起点があった現在のサンピア駐車場付近を想定し、浜松市中心部と浜名湖及び F-FISH タウン（郊外）をつなぐ拠点として整備します。



(3)整備の概要

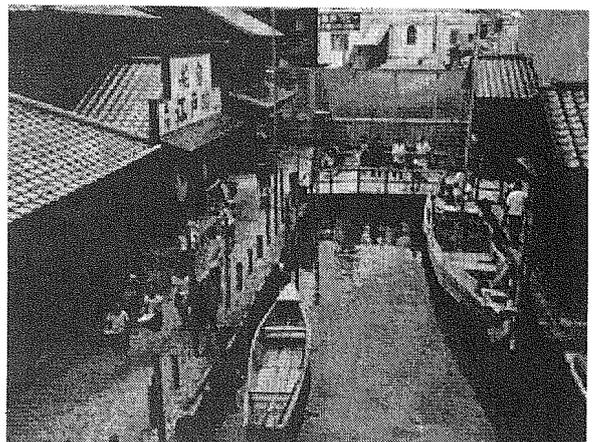


※「まちの駅」とは

まちの情報発信を行い、人と人の交流空間で、まちづくりの活動拠点であります。

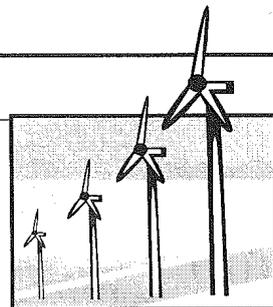
※ナローボートとは

イギリスで運河など細長い所を運航できる運河船です。



▲市民参加がモットーの浦安市郷土博物館

施設名称	概要
水上レストラン	・堀留運河の上の水上レストラン「チャンネル」、浜名湖・浜松に因んだ料理を提供
土産店	・既存の地場産品だけではなく、新しく開発した特産品も展示販売（アンテナショップ機能を持つ）
交流サロン	・市民活動・交流の拠点施設 ・浜松チャンネル倶楽部の事務局も併設 ・産業観光、環境のテーマで市民活動を行う「まちの駅」の機能を有する施設 ・各種セミナー、ワークショップ等を開催
カヌー置場 自転車置場	・堀留運河をカヌーや自転車で利用する客（通勤・通学を含む）の置き場
手づくりカヌー工房	・手づくりのカヌーを自分の手で製作し楽しむための工房
レンタルショップ	・カヌー、自転車、自動車、オートバイ、電動車椅子、ジョギングシューズ/ウェアなどのレンタルコーナー
ロッカー シャワールーム	・ジョギングやサイクリング等の利用者用
コンビニ 観光案内 バス待合	・売店機能 ・観光及び産業などの案内パンフレット・地図・優待情報等の提供並びにビデオ放映・インターネット利用ができる案内所 ・休憩所、定期観光バスや循環バスの待合所
バス停	産業観光バス、観光バスやタクシー、観光ハイヤーなどの乗り場を併設
駐車場	自動車・観光バスの利用客を呼び込める駐車場
乗船場（棧橋）	運河めぐり船「ナローボート」を運航する。
イベント広場	フリーマーケットやとれたての野菜の朝市
風力発電	運河沿いにモニュメントとして、うなぎをモチーフにした風力発電装置を設置 HORIDOME タウンの電力の一部を賄う



5. 活動の担い手「浜松チャンネル倶楽部（仮称）」

堀留運河の復元、清掃、環境学習などを通じて市民・企業が参加し、観光名所化するための組織を提案します。

◆基本概念

チャンネル倶楽部の理念は、自らのもてなしの心を持って活動することである。

◆目的

堀留運河を通じて浜松地域の観光（産業観光も含む）の活性化を推進し、住んでいる人も外から来たひとも「もてなしのまち浜松」を心から感じていただくことを目的にしている。

◆参加資格

堀留運河・浜松をこよなく愛し、「チャンネル倶楽部」の目的に賛同し、自ら進んで活動していただける方なら誰でも参加できる。

◆運営

会員の会費や、市民及び企業等からの寄付金などで運営する。

◆活動内容

- ・堀留運河の清掃、水質浄化運動
- ・堀留運河周辺の修景及び景観の整備
- ・運河や川による各種交流・啓発事業の開催
- ・堀留運河に関する情報の提供
- ・環境体験学習による青少年の育成
- ・堀留運河に関する調査研究・提言活動の実施
- ・堀留運河を活用した新産業の創造（産業観光を含む）

浜松キャナル倶楽部（仮称）は、市民が主体となって活動することに対し、商工会議所などの経済団体が支援し、市民・企業・行政のパートナーシップによるNPO法人の形態が望まれます。

<浜松キャナル倶楽部の取り組み内容>



河川法の改正によって、河川整備計画を市民の意見を取り入れることが求められている。

市民参加のワークショップで河川整備計画をつくる動きが活発化している。



6. 市民参加による堀留運河の復元活動

(1)復元活動の内容

堀留運河の復元活動は、市民参加で運河の美化や環境改善をテーマに交流事業を行います。

◆堀留運河の復元活動

- ・ 運河きれい運動の実施
- ・ 運河沿いの修景整備
- ・ 環境学習体験の推進

◆堀留運河PRイベントの推進

①運河きれい運動の実施

- ・ 堀留運河を復元させるための河川清掃活動を定期的の実施します。
- ・ ケナフ等浄化作用のある植物をバランスよく植え、自然浄化を促します。
- ・ 更なる下水道整備の推進を促します。
- ・ きれい運動の一環で、「堀留運河クリーンツアー」などをエコツアーリズム型の広域集客イベントとして実施します。



②運河沿いの修景整備

- ・ 手作りタイルホログラムや、北遠の間伐材を活用し、遠州地方に因んだデザインの遊歩道等を整備します。
- ・ 桜並木・柳並木・銀杏並木等の植林活動を進めます。

③環境学習体験の推進

- ・カヌーを利用して、運河下りで観察会を行います。
- ・カヌースポーツを推進します。
- ・学校教育の一環としての自然観察（環境学習）の手助けを行います。



▲遊びの中から自然や環境について学ぶ

(2)堀留運河のPRイベントの推進

①堀留運河杯争奪カヌー大会の開催

堀留運河を広くPRするために、カヌーレース大会を開催します。

このレースは、健常者だけでなく障害者も参加できるようにします。

大会の前には、参加者によるクリーン作戦（清掃）も実施します。



▲カヌー大会（石狩川カヌーレース）

②堀留運河ウォーク

堀留運河沿いを歩くウォーキングイベントを開催します。また、周辺のJR浜松工場や賀茂真淵記念館、及び伊場遺跡公園などを見学しながら散策します。

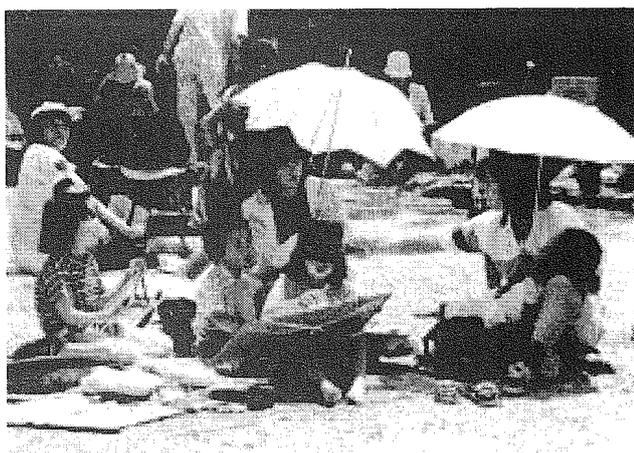
③堀留運河写生（写真）大会

堀留運河の風景・回りの様子などを絵画・写真にて表現してもらおう写生大会（もしくは撮影会）を行います。

この催しは、市民に運河への愛着と郷土への誇りを感じてもらおうことを目的として開催します。

思い思いの写生ポイントでユニークな作品を描いてもらいます。親子で参加し、家族とのふれあいの時間をつくります。

優秀作品は、広報誌に掲載し、商工会議所、市役所及び、中心市街地のイベントなどで「街角ギャラリー」として展示し、表彰も行います。



▲家族のふれあいのひととき(写生大会)



▲「写生大会」（彦根青年会議所 HP より）

F-FISHタウンの整備

1. 道の駅『F-FISHタウン』の概要

(1) 目的

- ◆産業観光ツアーの拠点づくり
- ◆湖の駅構想とネットワーク
(環浜名湖の湖上交通ネットワーク拠点)
- ◆浜名湖の不法係留船を收容 (公共マリーナ)
- ◆浜松らしい集客能力のある観光拠点づくり (浜名湖うなぎ博物館)
- ◆シップ&ライドの交通システムを導入 (渋滞緩和対策や環境対策)

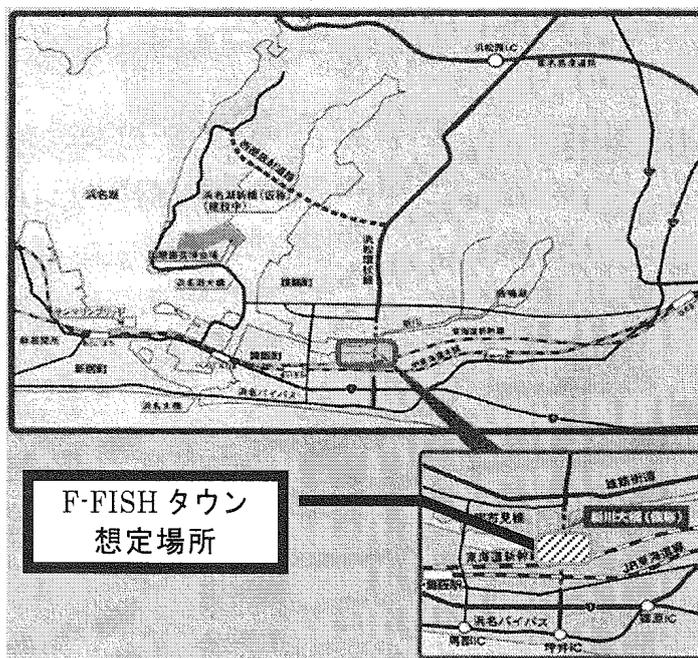
※F-FISHとは、浜松環状線に架かる新しい橋の名称「とびうお(fly・fish)」の名前に因んだ地区の名前。

※シップ&ライドとは、渋滞緩和、環境保全のために水上交通とバスなどの公共交通を利用して都心へアクセスする交通システム。

(2) 想定場所

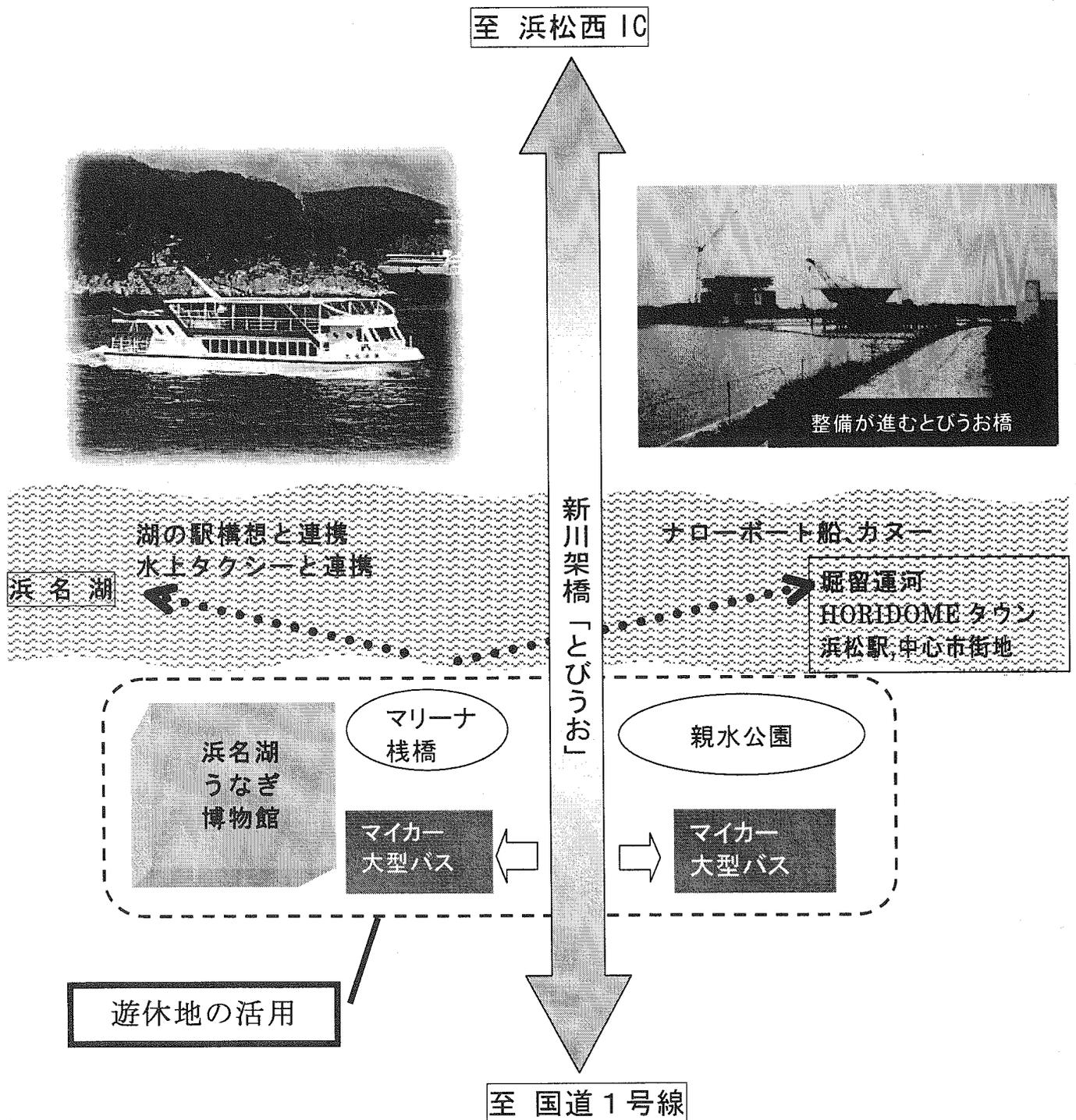
F-FISHタウンの想定場所は、堀留運河から浜名湖に向かう新川沿いで、浜松環状線の新川大橋「とびうお橋」周辺の遊休地を想定しました。

この周辺は、養鰻池の跡地などが多く、浜松市も遊休地の活用調査を行ったが、具合的な動きは見られない状況にあります。



(3)F-FISH タウンの概要

F-FISH タウンは、国際園芸博を契機に堀留運河が新川に合流し、浜名湖に注ぐ地区に遊休地を利用して湖上交通とネットワークする陸側の観光名所としてつくろうとするものであります。



施設名	目的
公共マリーナ	不法係留船の収容
栈橋、船の発着所	湖上交通による広域観光ネットワーク
親水公園	花と緑の公園、観光客や市民の憩いの場
大型駐車場 バス発着所	自家用車 1,000 台、24 時間対応トイレ 定期観光バス、舘山寺の送迎バス等の発着所
浜名湖うなぎ博物館	うなぎの消費拡大・PR、観光の目玉

①公共マリーナ

1991年のデータでは、浜名湖には5,500隻の不法係留船が存在していました。その後、浜名湖周辺市町では、不法係留船を収容する公共マリーナを整備していますが、依然として不法係留が解消されず、安価でかつ、交通アクセスの良い所にマリーナを求める声があります。



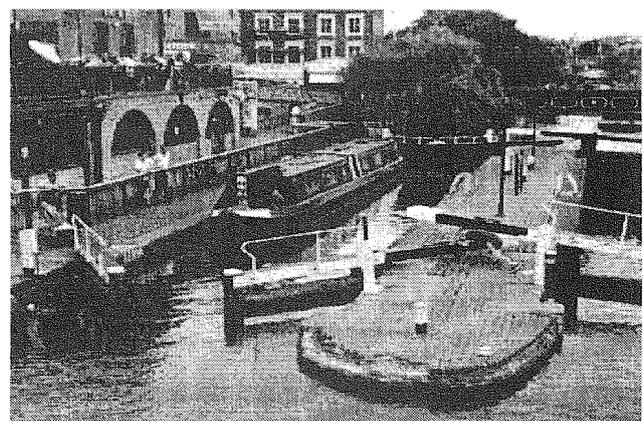
▲雄踏町が整備した「宇布見マリーナ」

よって、F-FISH タウンには、不法係留船を収容する公共マリーナを整備します。

②栈橋、運河めぐり遊覧船運航

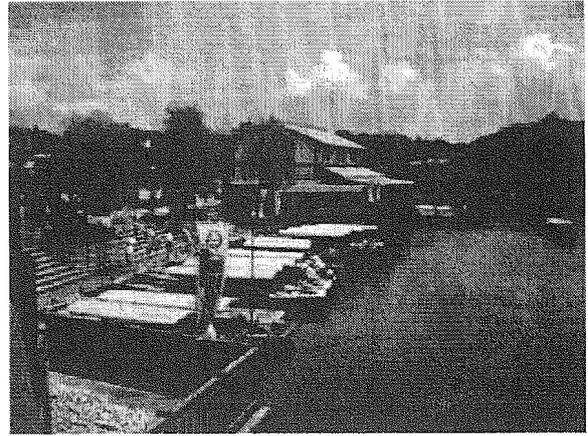
マリーナの栈橋を利用して、運河めぐりが楽しめるよう「ナローボート」(遊覧船)などが発着できるようにします。

また、カヌーなどの小型ボートも楽しめるよう栈橋を整備します。



▲運河遊覧船「ナローボート」

この船は、観光目的の遊覧船として運航するだけでなく、通勤・通学や買物などの目的で船によって都心部へアクセスする市民の足としての交通システム「シップ&ライド」の考え方も持ち合わせています。



③親水公園

新川沿いに水際を散策したり、水辺近くまで行ける親水公園を整備します。

親水公園は、美しい橋のフォルムとマッチして、四季折々の花々が咲く市民の憩いの場としても活用されます。



▲新川大橋の完成予想図（静岡県 HP）

④浜名湖うなぎ博物館（仮称）

舘山寺や国際園芸博の会場とともに浜名湖の観光拠点として、浜松らしい体験学習型のテーマ館「浜名湖うなぎ博物館（仮称）」を整備します。（詳細は後述）

⑤舘山寺の送迎バスのコース化

舘山寺温泉が中京方面の観光客をもてなすために運行している送迎バス（1日1回 JR 弁天島駅）があります。

JR 舞阪駅周辺整備に併せて、送迎バスのコースを『JR 舞阪駅～FISH タウン～舘山寺』に変更されることを提案します。

2. 浜名湖うなぎ博物館（仮称）の建設

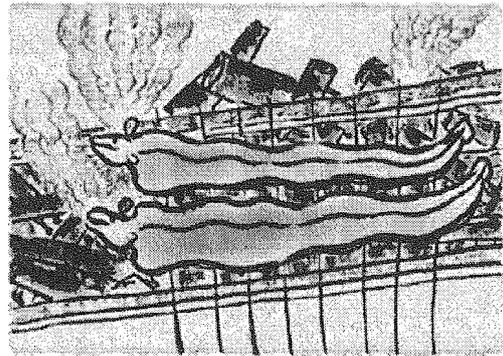
(1)なぜ、うなぎ博物館か

浜松は、以下の理由から、うなぎのまちと言われます。

- | | |
|------|--|
| 理由 1 | うなぎ養殖発祥の地 ※P49 参照
50 |
| 理由 2 | うなぎの生産日本一 ※P49 参照
50 |
| 理由 3 | 浜名湖うなぎは全国ブランドの知名度
(うなぎパイ含む) ※P49 参照
50 |
| 理由 4 | うなぎの消費量日本一（うなぎ料理専門店）※P50 参照
51 |
| 理由 5 | 市民の意識も浜松と言えば「うなぎのまち」※P51 参照
52 |

●うなぎが、かおり風景百選

2001年、新たに創設された環境省の
「かおり風景百選」に「浜松のうなぎ」
（蒲焼の香り）が選ばれた。



魅力あるまち ⇒ 浜松らしさ ⇒ うなぎ（まちづくり）

魅力あるまちを外に向けてアピールにするために、浜松らしい“うなぎ”をテーマしたまちづくりを取り組むことが望まれ、それをわかりやすく表す場所として、うなぎのテーマ館「浜名湖うなぎ博物館（仮称）」を提案します。

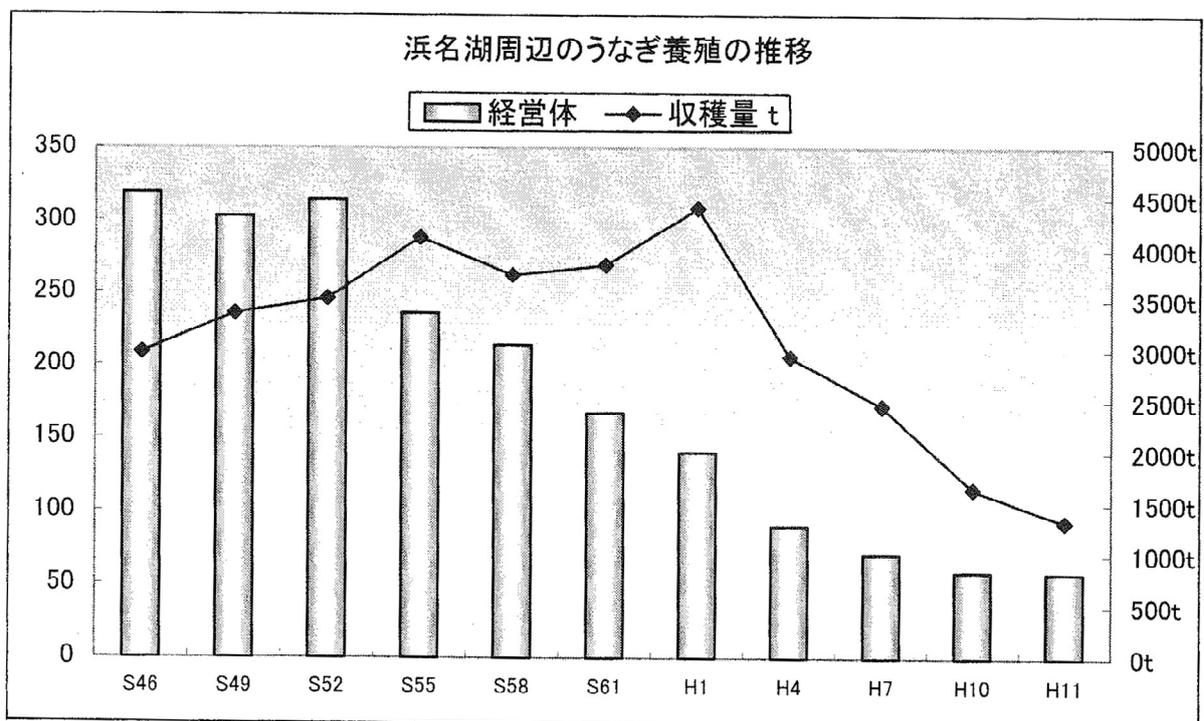
(2)うなぎのまちが赤信号

うなぎ養殖の発祥と言われ養殖が盛んなこの地域が、いま存亡の危機に直面しています。

浜名湖周辺のうなぎ養殖の推移を見ると、昭和 50 年代後半以降、経営体、収穫量ともに減少しています。

収穫量は、ピーク時の 3 分の 1 以下、経営体はピーク時 350 程度あったものが、平成 11 年度では 58 と 6 分の 1 ほどに激減しています。

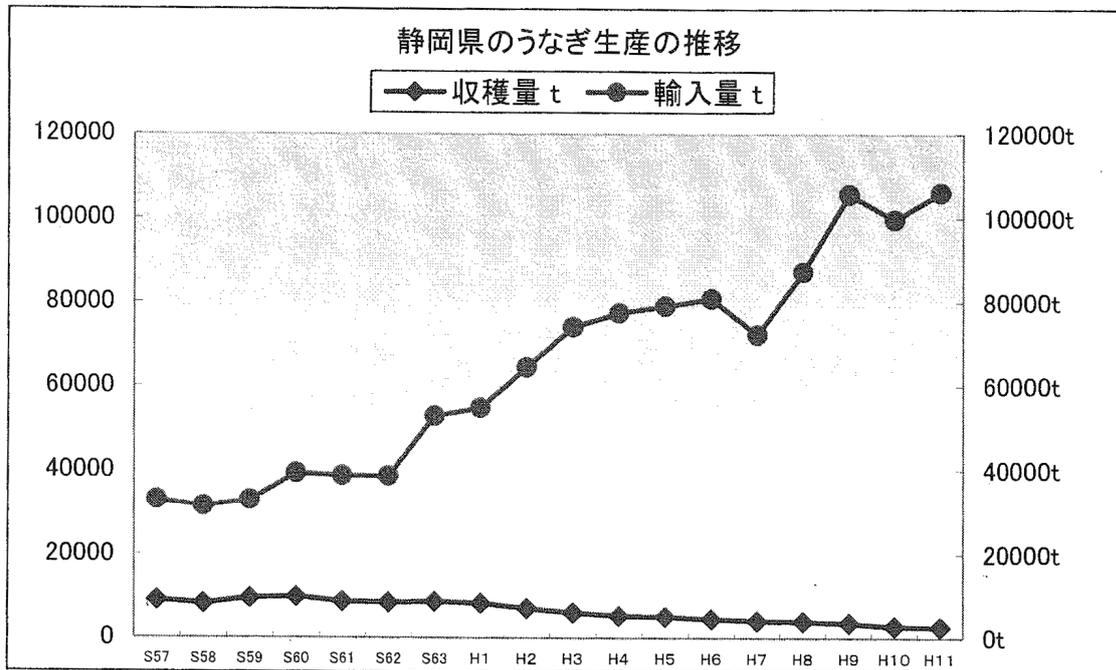
経営体の減少と逆比例して、遊休化した養鰻池が増えています。浜名湖周辺の遊休養鰻池が荒廃しており、その利用方法も課題とされています。



資料：静岡農林水産統計年報水産編（関東農政局静岡統計事務所）

県内の収穫量と輸入量の推移は、この 20 年間で、輸入うなぎに市場を奪われました。

原因は、後継者不足の中で、台湾や中国などの海外産の安価うなぎの輸入増加によるもので、浜名湖うなぎも海外産に押されて厳しい経営環境にあると考察されます。



資料：静岡農林水産統計年報水産編（関東農政局静岡統計事務所）

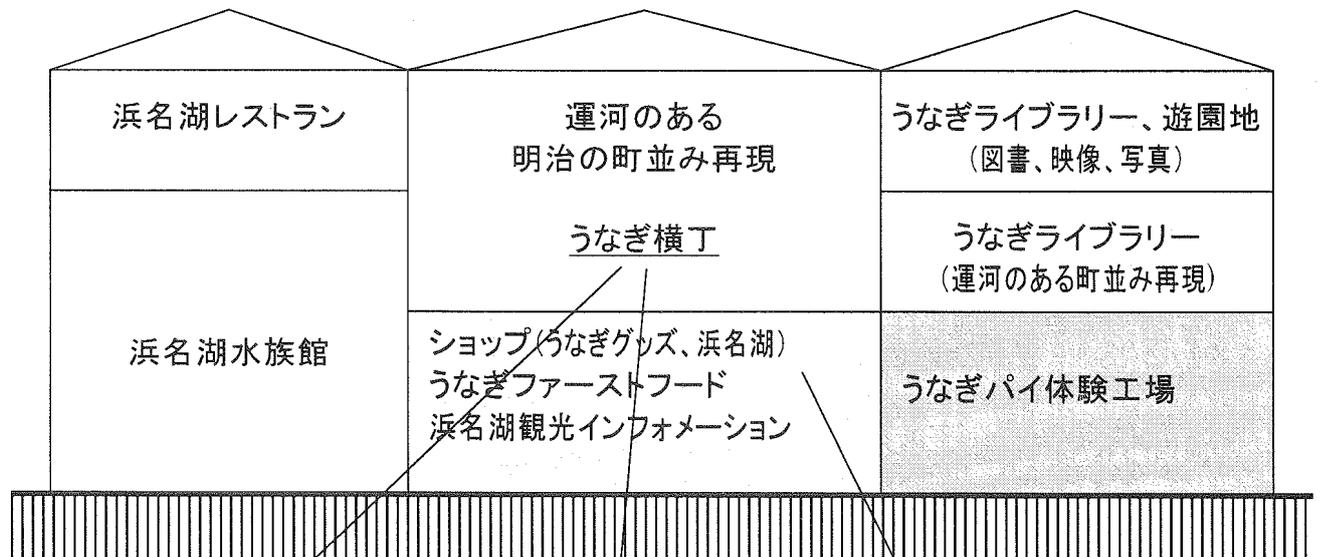
浜松（浜名湖）地域は、戦前戦後を通じて国内産のうなぎ生産量で常にトップクラスを誇ってきましたが、「浜名湖うなぎ」はブランドだけ日本一で、実態は愛知県、鹿児島県、宮崎県にも抜かれてしまいました。

(3) 浜名湖うなぎ博物館（仮称）の概要

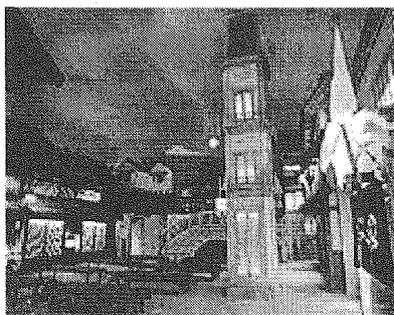
① 目的

- ◆ うなぎの消費拡大
- ◆ うなぎのまちとしてのシンボル
- ◆ 産業観光の拠点づくり（観光名所）
- ◆ 食をテーマにした情報発信、交流の場づくり
- ◆ うなぎの生態系の研究、学びの場づくり

② 施設内容



▲ 町並み再現
(新横浜ラーメン博物館)



▲ 町並み再現
(清水すしミュージアム)



▲ グッズショップ

③浜名湖うなぎ博物館（仮称）の施設内容

機能	施設内容
遊ぶ	●うなぎパイづくり体験工場
	<ul style="list-style-type: none"> ・うなぎパイづくり体験工房 ・うなぎパイ製造見学・実演 ・あつあつうなぎパイの試食
	●インフォメーション
	<ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖周辺の観光情報、産業観光の案内受付 ・遊覧船受付（ナローボート、カヌー、屋形船） ・うなぎ横丁及び浜名湖水族館の受付
食す	●うなぎ横丁（運河の町並み再現）
	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の有名うなぎ専門店 ・うなぎを利用した料理（うなぎギョウザ、ぼくめし等） ・鰻さばきショー
	●浜名湖レストラン
<ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖の魚介類、地域の農産物を食材にした料理 	
学ぶ	●うなぎライブラリー（生態系の調査研究）
	<ul style="list-style-type: none"> ・うなぎ養殖の歴史、 ・うなぎの食文化 ・うなぎ文献、写真、テープ、CD ・うなぎの道具展示（料理道具、漁具）、水槽 ・世界のうなぎ料理
	●浜名湖水族館
<ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖の魚貝類 ・浜名湖の歴史、水環境、水質浄化のショールーム ・うなぎの餌付けショー、うなぎつかみ取り体験 	
買う	●ショップ
	<ul style="list-style-type: none"> ・うなぎグッズ販売 ・うなぎ販売（白焼き、かば焼き） ・浜名湖の特産品販売 ・うなぎファーストフード（アイス、バーガー、ラーメン）

(4)東西の食文化の融合する地域

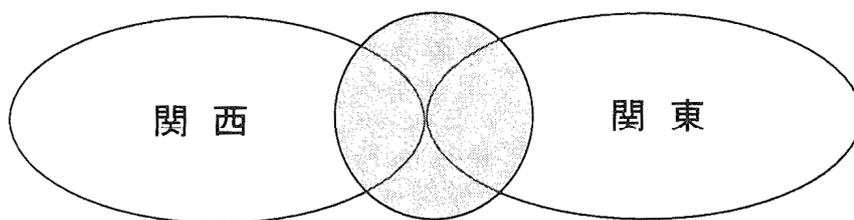
うなぎの料理方法で浜松地域は、東西の食文化の分岐点であり、東西の食文化が融合した地域であります。

◆うなぎの料理方法の分岐点が浜松地域

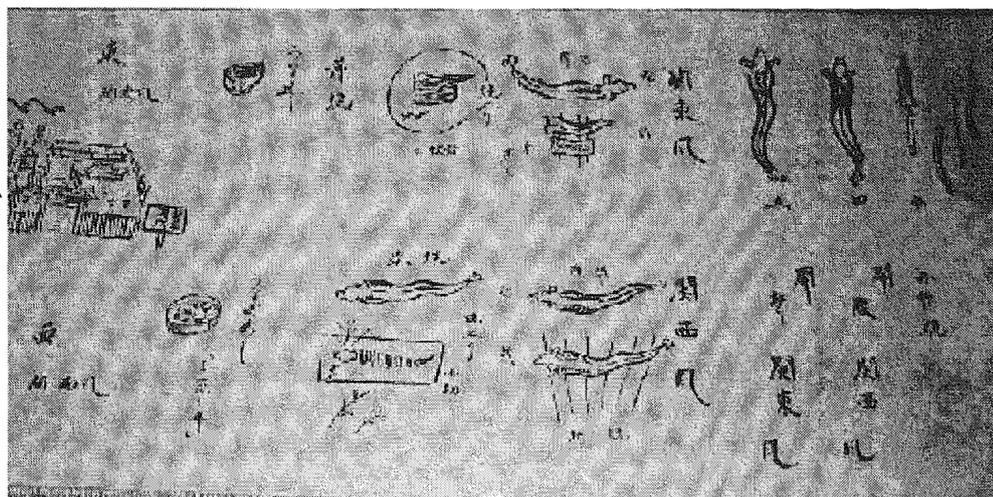
- ・ 関西風：腹裂き 豊橋以西
- ・ 関東風：背開き 舞阪以东

◆日本において食文化の分岐点（融合点）と言われている

- ・ その他、食文化全般でこの地域が東西の分かれ目



うなぎの東西の分岐点「新居の関所」



▲うなぎの老舗専門店「あつみ」のご主人保有の「うなぎの食文化の巻物」より

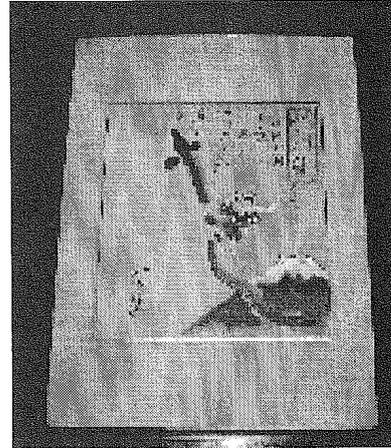
よって、うなぎのテーマ館「浜名湖うなぎ博物館（仮称）」では、学び、遊び、交流し、日本の東西の食文化を伝承することが重要になります。

(5)うなぎライブラリーとなり得る資料

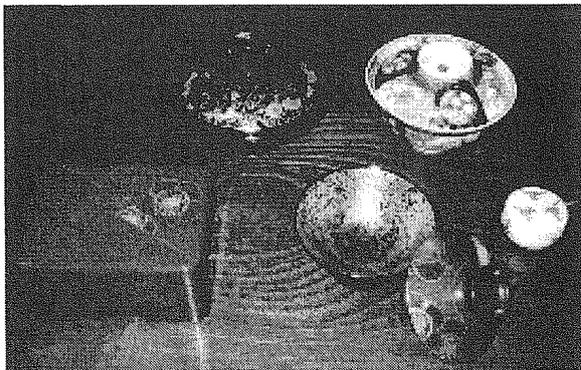
浜名湖うなぎ博物館のライブラリーなどの特別展示会などで可能な資料が市内の老舗うなぎ料理店にて保存所有されています。うなぎの食文化が感じられる逸品です。



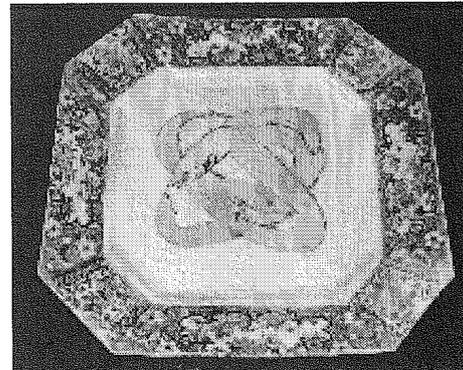
▲浮世絵に描かれた鰻(版画)



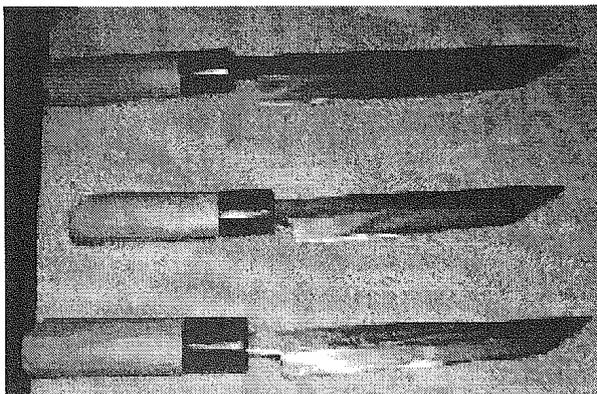
▲登り鰻の「鰻太郎」の絵



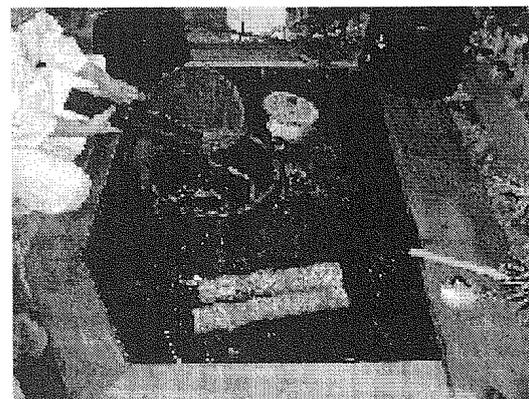
▲食器(明治時代の有田焼の鰻丼、漆塗りの丼、お重は最近のもの)



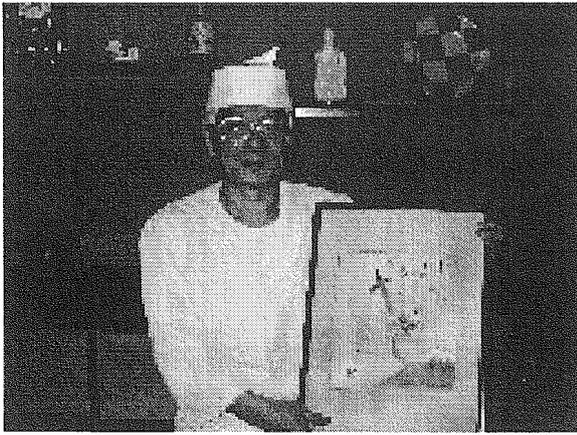
▲うなぎの絵皿



▲明治時代の鰻包丁(正豊、正秀)今は製造していない

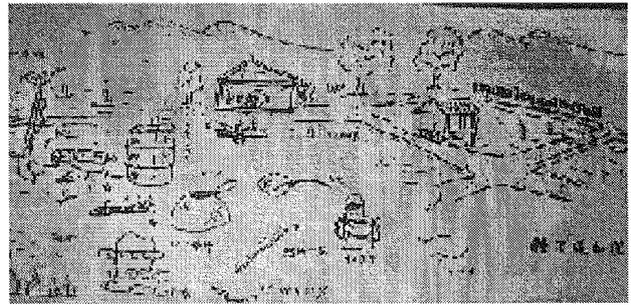


▲鰻の生簀
(深さは約25cm程度が最適)

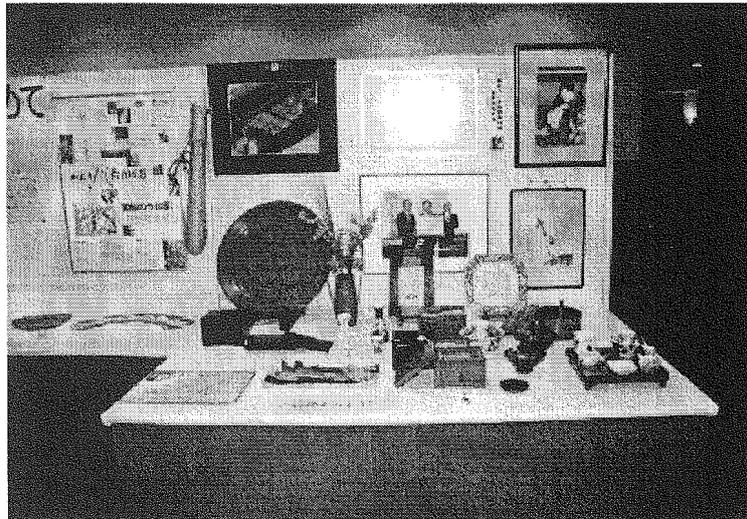


鰻の文化を伝えたいと言う「あつみ」
のご主人

浜名湖うなぎ博物館のキーマン、
館長！？



▲鰻の文化を記す貴重な「巻物」



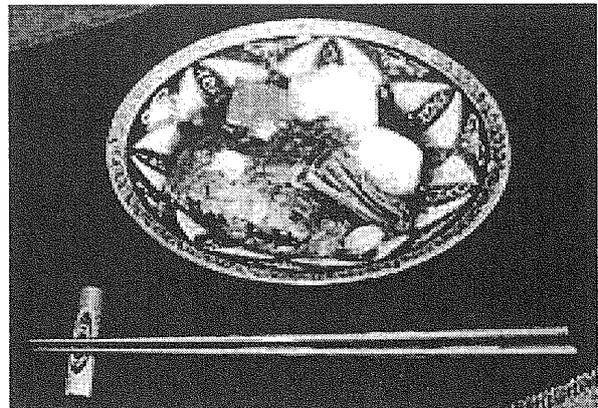
▲今すぐでも「浜名湖うなぎ博物展」が開ける！

②浜松うなぎ料理コンテスト

うなぎのまち浜松としても、浜松うなぎ料理専門店振興会等うなぎ料理のプロや一般市民も参加して、うなぎ創作料理コンテストを毎年開催します。

コンテストを通じて知り合った料理店等の人脈が浜名湖うなぎ博物館実現のための人的資源となります。

優秀作品を表彰して、市内のうなぎ料理専門店や「F-FISH タウン」及び、「HORIDOME タウン」内等のレストランにて創作料理として採用し、広く知らしめます。



▲ 浜名湖開湖 500 年祭のうなぎ料理コンテストの作品「うなじぶ」

③うなぎフェスティバルの開催

F-FISH タウンと浜松の中心市街地を会場にして、堀留運河とシャトルバスでつなぎ、うなぎをテーマにした交流事業「うなぎフェスティバル」を行います。

平成元年に浜松の中心市街地で開催していた「やらまいかうなぎまつり」のノウハウを生かして開催します。



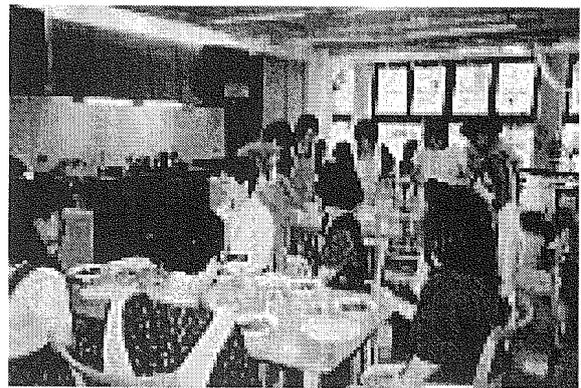
▲ 食のフェスティバル(よこすかカレーフェスティバルより)

このイベントは、5月の「浜松まつり」の期間に行うことにより、全国に浜松のうなぎをアピールし、浜松市周辺への観光等の誘客を促進します。

テレビ・ラジオ・新聞社・出版社等マスコミとタイアップして行うことが望ましいと考えます。



また、うなぎフェスティバルでは、うなぎの消費拡大を目的に、うなぎを使った料理の開発する教室を開催します。これは、料理人や調理師専門学校等の講師を招いた文化事業であります。



④うなぎグッズ開発

様々な商品に関して、うなぎをテーマにしたグッズや加工品などの開発研究に取り組み、うなぎのまちとしてのPRのための商品アイテムを増やす。

商品化されたグッズを商工会議所等が一括してPRします。



▲うなぎキャラクター「うっきー」

⑤全国うなぎサミットの開催

全国のうなぎ関連のまちとうなぎを通じた交流することを目的に、全国うなぎサミットを浜松で開催します。

このサミットは、浜松市、うなぎ専門料理の会、商工会議所、浜名

湖養魚漁業協同組合などが中心となって開催することが望まれます。

そして、浜松が全国に向けて「うなぎのまち宣言」を行い、全国に向けてアピールするとともに、うなぎをテーマにしたまちづくりのきっかけとします。

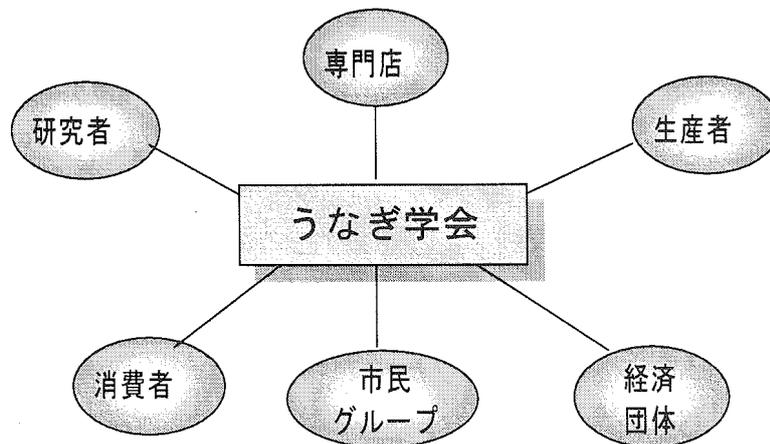


▲カレーシンポジウム(カレーのまち:横須賀市)

⑥うなぎ学会

うなぎに関する学術研究を含め、浜名湖の歴史や文化などを研究する「うなぎ学会」を立ち上げます。

この学会は、学術的だけでなく、うなぎをテーマにしたまちづくりグループ(市民団体)として考えます。



浜名湖うなぎ博物館は、うなぎのまちの交流事業や販売・普及啓発活動の拠点となります。

富士宮市の“やきそば”のまちづくりを進める「やきそば学会」は、うなぎ学会の先進事例と思われます。



▲富士宮市の「やきそば学会」
(やきそば学会 HP より)

⑦うなぎのアンテナショップ開設

市内のうなぎ料理専門店を中心に、浜松に来れば様々な店のうなぎ料理（創作料理を含む）が味わえる実験店舗（アンテナショップ）を中心市街地に開設します。

この事業は、中心市街地活性化のための「空き店舗対策事業」や、商工会議所が主催する「提案公募型地域活性化事業」を活用して実験的に行うものであります。

アンテナショップでは、うなぎ料理の教室を開催や、うなぎのグッズや菓子などの販売及び、うなぎの宅配事業も行います。

この実験店舗（アンテナショップ）でのノウハウや人的ネットワークが「浜名湖うなぎ博物館」の基礎となります。運営には、「うなぎ学会」も応援団として協力します。

※提案公募型地域活性化事業とは、商工会議所等が自ら提案する先進性、独創性に富み、かつ地域の活性化に大きく貢献する事業であります。

平成13年度の商工会議所青年部関東ブロック大会の開催地「宇都宮市」では、餃子のまちづくりを進めていますが、その拠点として、「餃子のアンテナショップ」を開設しました。最初は、この提案公募型地域活性化事業を活用して立ち上げました。



▲宇都宮餃子のアンテナショップ

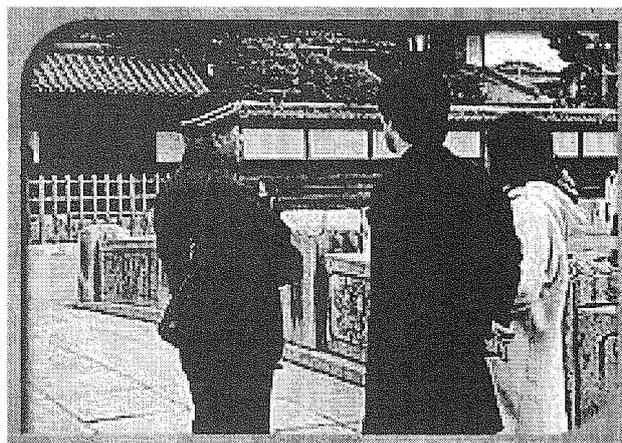
産業観光と“おもてなし”

1. 産業観光の推進

①ボランティアガイド

堀留運河並びに周辺の産業観光ツアーのボランティアガイドを行います。堀留運河の運河めぐりと併せて周辺の工場見学や文化財などの案内も行います。

このシステムは、モデルコースの紹介・案内だけでなく、観光客のニーズに合ったオーダーメイドのコースを手配できるコンサルティング機能を備えたものであります。



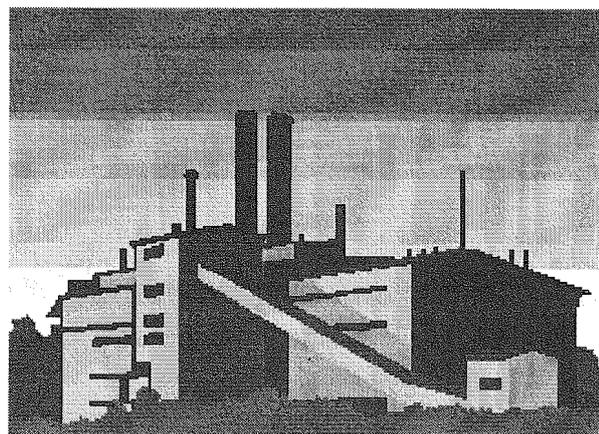
▲ボランティアガイドの先進地：倉敷市

②運河めぐりツアー

堀留運河、新川、浜名湖など浜名湖の遊覧船と運河船「ナローボート」と組み合わせた運河めぐりツアーを実施します。

③産業観光循環バスの運行

(財)浜松観光コンベンションビューローやバス会社等と連携して、テーマ別産業観光のモデルコースをめぐる「産業観光循環バス」を運行します。



2. 市民の手で「はままつフィルムコミッション(仮称)」を!

①はままつ FC (Film Commission/フィルムコミッション) の設立

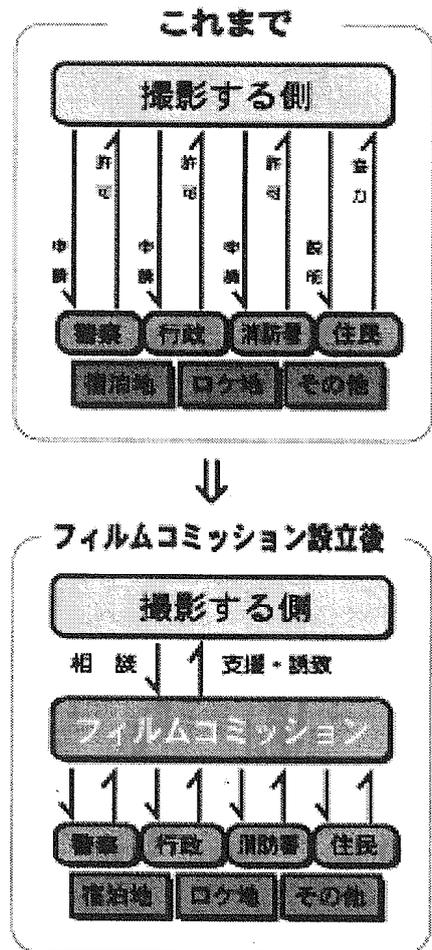
もてなしのまち・浜松として、観光など地域経済の活性化ともてなしのニュービジネスの創造として、「はままつフィルムコミッション(仮称)」(略称: はままつ FC) を設立します。

これが、周辺観光施設と連携して映画、ドラマ、コマーシャルフィルムなどのロケ・撮影への協力を行う機関であります。

はままつ FC は、浜松市や(財)浜松観光コンベンションビューロー、浜松商工会議所など官民共同事業として進めていくことが望まれます。



▲TV番組「伊豆・天城越え殺人事件」のロケ風景
(FC伊豆の撮影協力)



香川フィルムコミッション

②はままつFCの活動

- ◆ 製作者及び撮影への協力
- ◆ エキストラの確保
- ◆ 出演者、スタッフ等の宿泊・食事場所・レンタカーなどの紹介
- ◆ 警察、消防、各種機関等への許認可行為の手助け
- ◆ 市内を中心に撮影に使える学校・病院・ホテル・商店街などのリストアップし、ロケ場所探しの協力、使用許可
- ◆ 浜松地域を舞台とした映画・ドラマ・CMのシナリオ等の募集

※ 国際フィルムコミッションズ協会 (AFCI) に加盟するFCは、世界 31 カ国、約 300 団体を数えます。

③FCの効果

- ◆ 映画やTVを通じて「浜松」の知名度向上
- ◆ 映像化で見慣れた風景に意外な再発見
- ◆ 撮影隊の宿泊や食事、資材購入、移動、臨時雇用など経済的な波及効果
- ◆ 「ものづくり」以外の浜松の魅力をPR
- ◆ 観光客の増加
- ◆ 地場産業との提携して新しい産業の創出
- ◆ 次代の日本映画を担う人材の創出

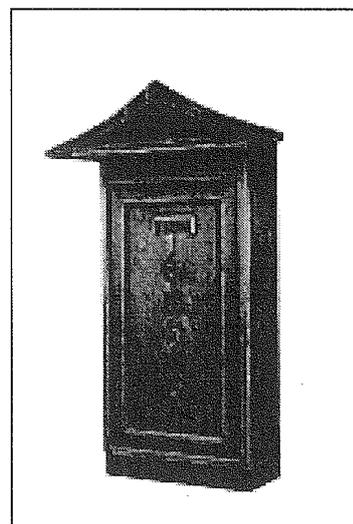
※ ニューヨークでは、年間約 100 本の映画が撮影され、8 万人の雇用と約 50 億ドルの経済効果を生み出しています。

3. 「もてなしのまち・浜松」の推進に参加

①うなぎポスト、うなぎ掲示板

「もてなしのまち・浜松」に対する意見や要望を“うなぎ”の形をした「うなぎポスト」を設置します。

これは、堀留運河のことだけでなく、うなぎのこと、浜名湖のことなど観光客に対するサービスの向上や政策に反映するためのものです。



▲松山市観光俳句ポスト

うなぎポストは、市内の駅、公的施設、ホテル・旅館、観光施設等に設置の協力をお願いします。

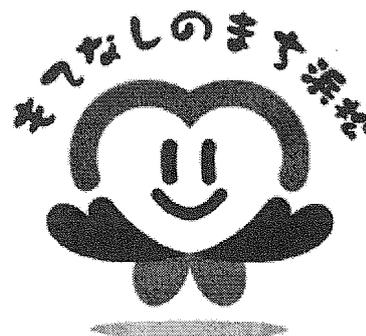
浜松キャナル倶楽部、うなぎ学会などのホームページにも「うなぎ掲示板」を設け、意見を聞きます。

うなぎポストの設置費は、企業協賛で賄うことも考慮します。

②「もてなしのまち・浜松をつくる会」の参加

このうなぎポストへ投函された市民や観光客の意見は、堀留運河の「浜松キャナル倶楽部」や「うなぎ学会」が協力してまとめます。

そして、書かれた意見は「もてなしのまち」を進める全市的な組織「もてなしのまち浜松をつくる会（主管：浜松市観光コンベンション課）」等で取り上げ、もてなしのまち・浜松推進運動としての施策に反映するよう協議してもらいます。

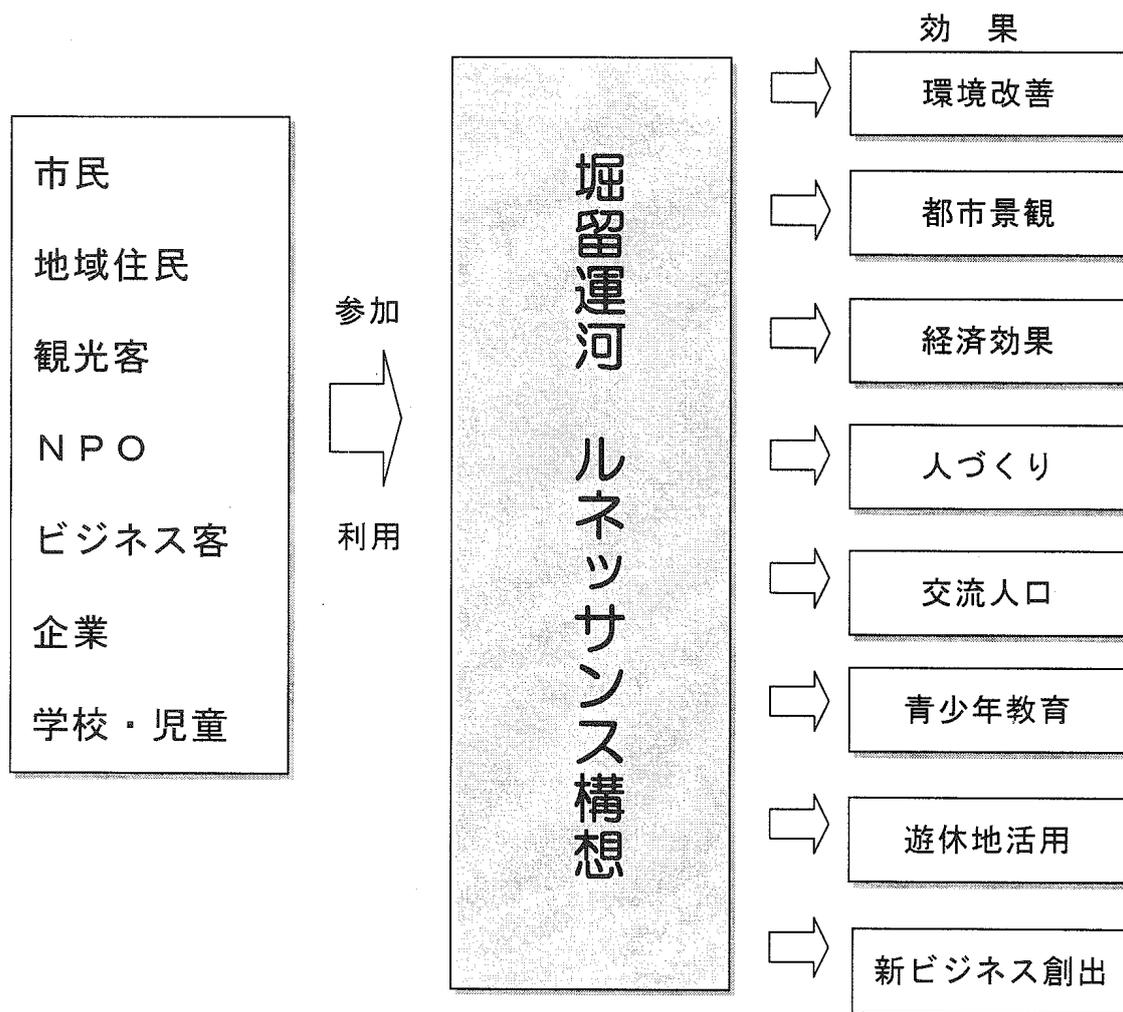


効果と実現に向けて！

1. 堀留運河ルネッサンス構想の効果

堀留運河ルネッサンス構想の実現には、市民、住民、観光客、企業などそれぞれの役割に応じてパートナーシップにより事業に取り組むことが望まれます。

そして、環境、経済、人づくりなどの様々な効果が得られます。



2. 整備手法と担い手

(1) 整備手法

① PFI 手法の導入

うなぎ博物館を始めとして、HORIDOME タウンや F-FISH タウン整備、運営に関して、民間の資金や経営ノウハウ等を活用して行う PFI 手法を活用することを提案します。

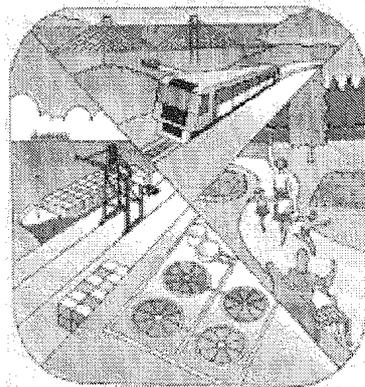
- ・浜名湖うなぎ博物館(展示、体験、調査研究、販売)
- ・公共マリーナ(不法係留のプレジャーボート収容)
- ・運河めぐり遊覧船(ナローボート)の運航
- ・駐車場
- ・親水公園、散策道
- ・レンタル(サイクル、カヌー)

P F I 事業 (民間主導の公共事業)

PFIとは、プライベート・ファイナンス・イニシアチブの略。

道路、港湾、橋、庁舎、美術館・博物館、観光施設、ゴミ焼却場などの公共公益施設などについて、設計・施工・維持管理、運営等を行政がすべてを行うのではなく、民間の資金、経営ノウハウ及び技術的能力を活用して行う新しい手法。

PFI は、第三セクターに比べて責任の所在が明確で、海外でも実施されている。日本でも平成 11 年に PFI 法が施行された。静岡県内では函南町の町営駐車場、小山町の温泉会館などが PFI を導入の計画がある。浜松市でも市庁舎の建替えを PFI 手法実施する検討がされている。

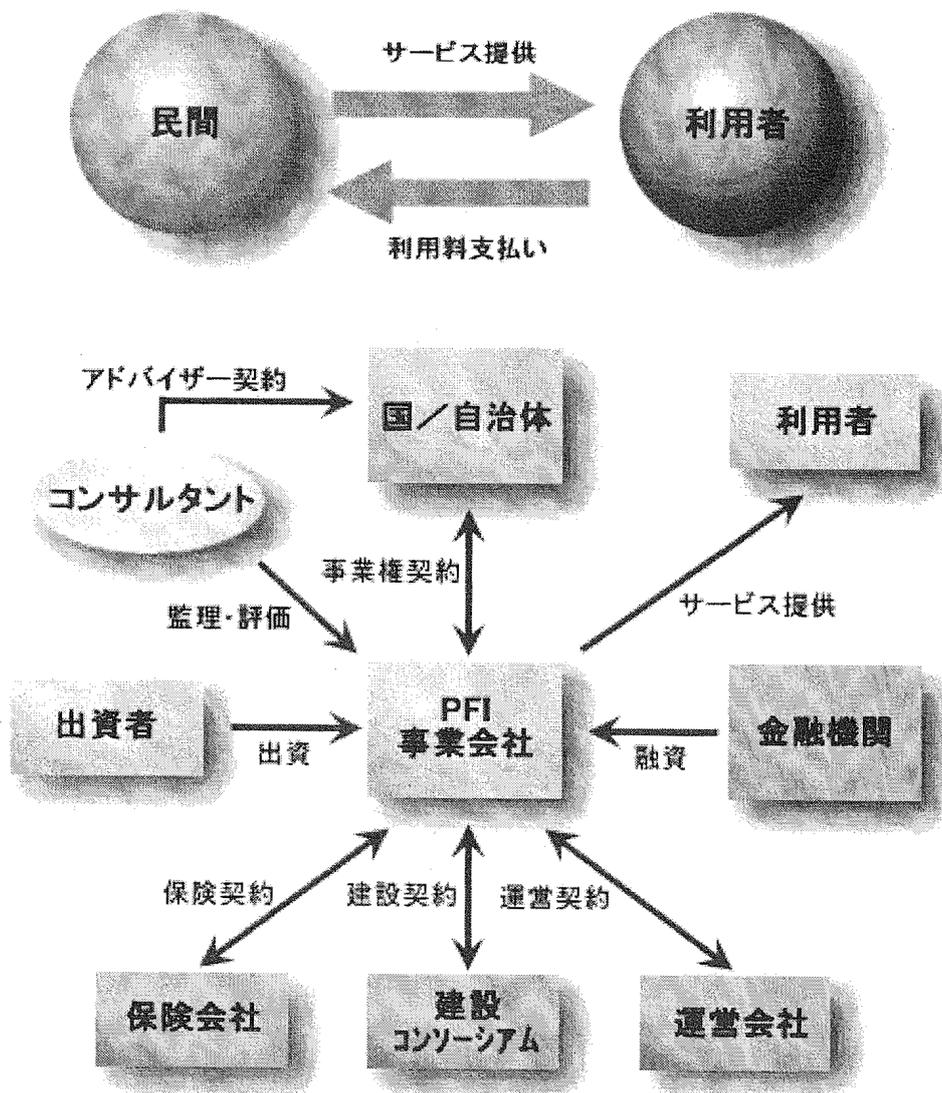


PFI手法の中で、民間主導の事業であることを印象づけるために、「独立採算型」と呼ばれるタイプが望ましいと考えます。

これは、民間事業者（SPC）を募集し、民間事業者が資金調達、施設の建設・運営を行い、利用者からの料金徴収や販売等により、資金を回収します。

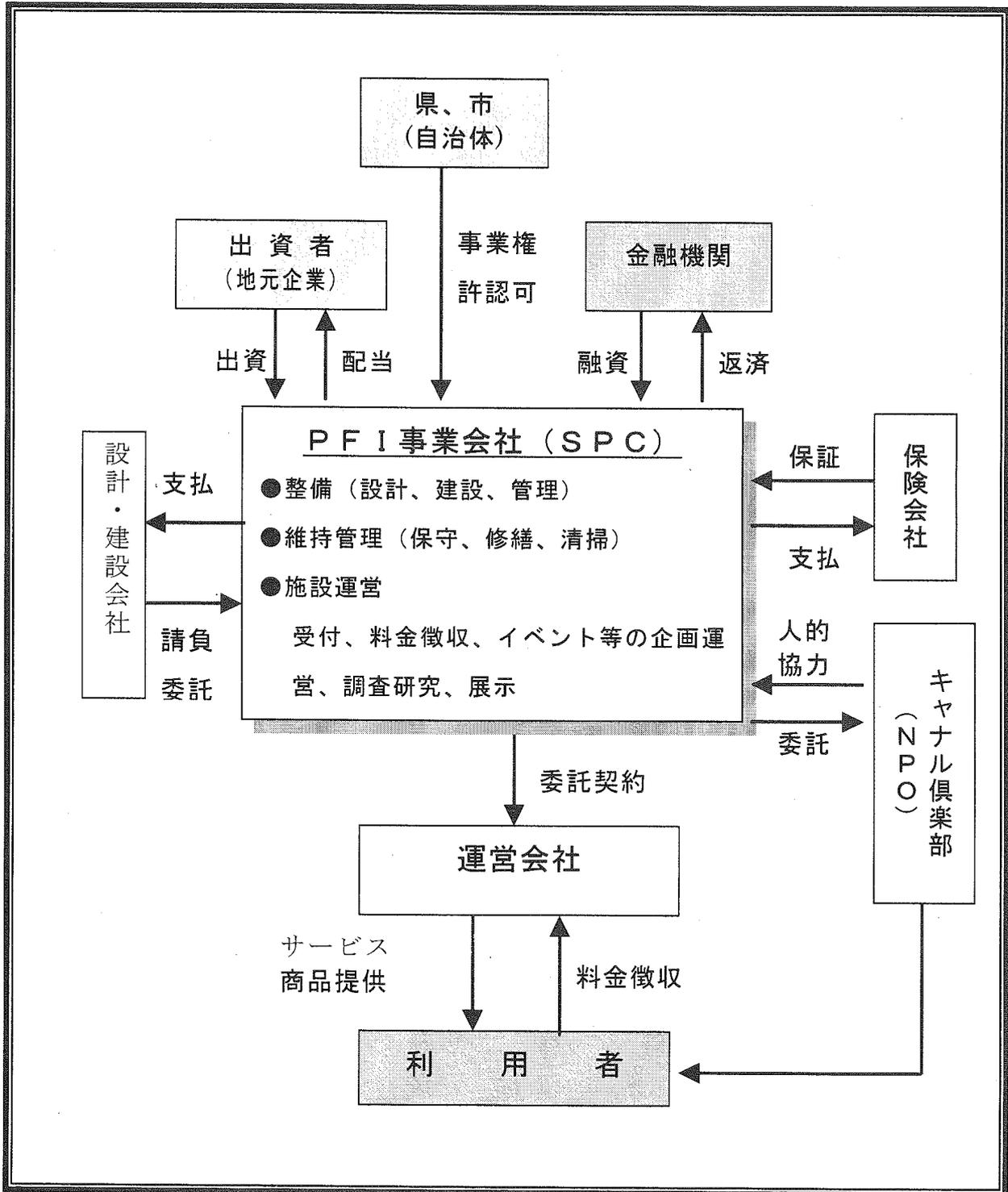
公的部門は事業許可権を与えるのみで、建設・運営のリスクは民間が負担するものであります。

この民間事業者等は、浜松地域に密着して事業展開を図っている企業を中心に構成していくことが望ましいと考察されます。



②事業スキーム

PFI 事業の手法を活用して整備・管理運営する提案をしましたが、「HORIDOME タウン」、や「F-FISH タウン」の事業スキームは、以下の図のとおりであります。

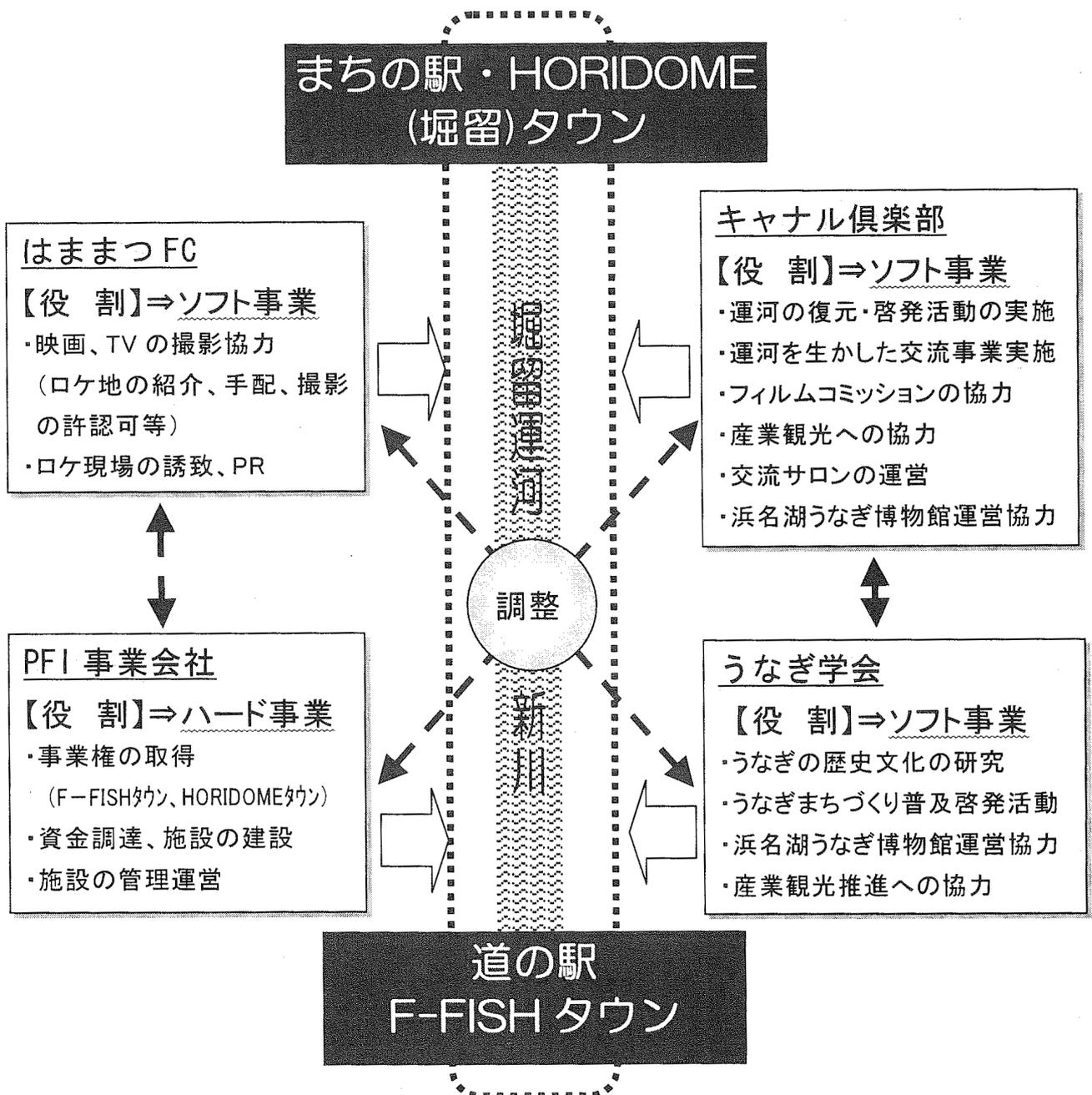


(2)堀留ルネサンス構想の担い手

堀留運河ルネサンス構想の担い手として、以下の組織を提案しましたが、それらの役割は以下のとおりであります。

これらの組織が互いに補完し、連携を図りながら進めていくことが求められます。それぞれの組織の調整役の存在も必要になります。

また、それぞれの組織において、担い手の核となる人や機関が現れることが最も重要な課題と考えます。



3. 今後の課題

①周辺地域との連携

堀留運河ルネッサンス構想を実現させるには、浜松だけでなく、その周辺地域との連携が特に重要となります。

いま国際園芸博に向けて周辺市町で進めている構想など浜名湖の湖上交通によるネットワークも必要になると考えられます。

②関係する市民団体等との連携

また、浜名湖、佐鳴湖をはじめ水環境の改善活動を行っている市民団体との連携も不可欠となります。

浜名湖周辺・静岡県全域・三河地域等の広域の自治体や観光関係団体との情報のネットワーク化を図り、広域的なキャンペーンの開催等を行うことにより、相互の幅広い多彩な財産を共有することができます。

③運河再生のために浚渫事業を！

堀留運河を市民や企業により復元する活動からはじめる堀留運河ルネッサンス構想を提言しました。

しかし、運河底が浅く、船が入り込める状態ではないので、小型の船が入れる程度の浚渫事業は不可欠となります。

④できることからコツコツと

この提言は、中長期的な取り組み内容が多いけれど、その目標に一

歩でも近づけるために、できることもいくつか提案しました。

それらできることを一つずつ実施していくことによって、人と人の輪が広がっていきます。

まちづくりに関わる人々が盛り上がるためには、時間がかかります。あせらず、あわてずの気構えが必要です。

したがって、即効性のある処方箋はありません。特効薬もありません。

“できることからコツコツと”の精神でいくべきと考えます。

⑤市民一人ひとりの『おもてなし心』の醸成

その財産とは、その地域の自然や歴史・文化・観光施設だけでなく、そこに住んでいる市民のもてなしの心などもそうです。市民のもてなしの心を醸成することが大切であります。

これらの仕組みづくりを市民や企業が参加し、継続していくことが「魅力あるまち・浜松」の実現に寄与するとともに、地域の活性化に大きく関係するものと確信します。

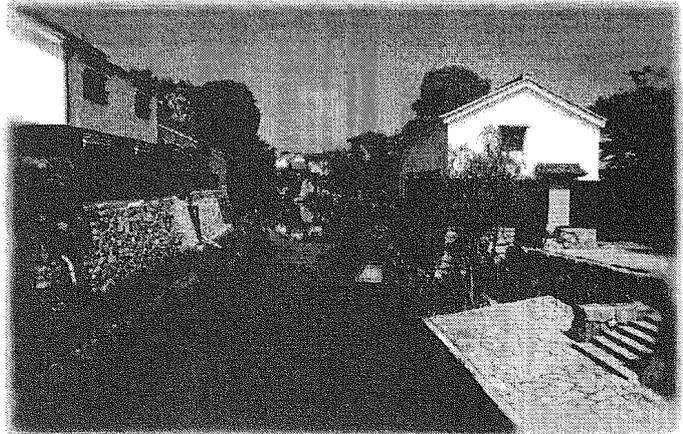
参 考 資 料

1. 運河を生かしたまちづくり事例

(1)滋賀県近江八幡市 八幡堀 (市民の手で堀を復元)

近江八幡市の「八幡堀」は、豊臣秀次が掘った内堀で、軍事的な役割と商業的な役割を持っていました。

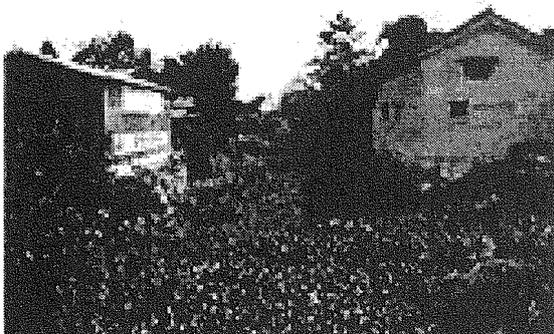
江戸期には、八幡商人の拠点として栄え、地場産物を積んだ丸子船が行き来し物流ターミナルとしての機能を有していました。堀の周りは、旧城下町の往時の名残を残しています。



▲八幡堀を守る会 ホームページ
近江八幡商工会議所 ホームページより

戦後は市街地の雑排水と薄^{水を}が流れ込むドブ川になってしまった。埋め立ての声もありましたが、自治会や青年会議所などが保存復元活動に取り組みました。

その市民の活動を受け、昭和58年国土庁の事業が進められ、護岸、遊歩道の整備やショウブなどが植えられました。



▲明治橋付近の整備前



▲同左 整備後

それが呼び水となって市内の女性5人が共同出資で、堀沿いの古い土蔵を改造して喫茶店をはじめました。

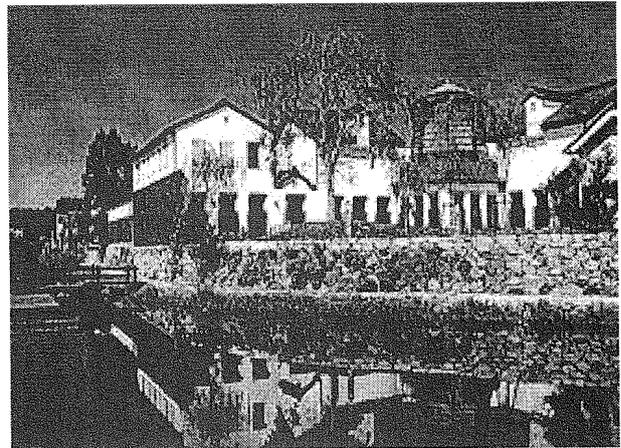
また、堀の清掃・除草活動を続けるボランティア団体「八幡堀を守る会」も結成さ

れたり、「ハートランド資金」と称するシビックトラストも創設されました。

さらに、県の河川環境整備事業や河川浄化事業、景観形成事業などを受けながら堀全体の復活を進めています。



▲市民の手でよみがえった八幡堀



▲瓦ミュージアム

八幡堀沿いにつくられた近江八幡の伝統産業「八幡瓦」をテーマとしたミュージアム。瓦の陶芸教室などもある観光拠点。

(2)中国江南地方「周荘（しゅうしょう）」

周荘は、上海から約 90 分のところにあり、江南水郷古鎮の代表都市であります。1984 年、アメリカの会社社長が友情・平和のシンボルとして、中国青年の描いた「故郷の思い出」（周荘の双橋を描いた）の絵画を鄧小平に贈りました。

その後、鄧小平がこんな美しい町はもっと知らせなくてはいけないと、すぐに地図にも載せて紹介しました。

それまで、地図にも紹介されてなかったこの地が、中国映画にも度々登場するようになり、全国的に有名になりました。

街は、夜も観光客のためにライトアップされます。水面に影を落とし夜の橋の風景は幻想的。商店の提灯もそれぞれ巧みに夜の街を演出しています。

日本人もこの頃多数訪れています。お土産品の開発・レストランの充実・その他観光に携わる人達の雇用増進などの結果を生みました。

しかし、交通渋滞・治安の悪化等の問題も生じてきました。



▲観光名所になった運河と水上レストラン

(3)イギリス グランド・ユニオン運河

イギリス運河の特徴は、幅7フィート（約2m）の船を基準に作られています。

一方、船の最大長は70フィート（約21m）もあります。イギリスの運河船は「ナローボート」とも呼ばれているが、馬で曳き易いようにこのような非常に細長い船の形状をしています。



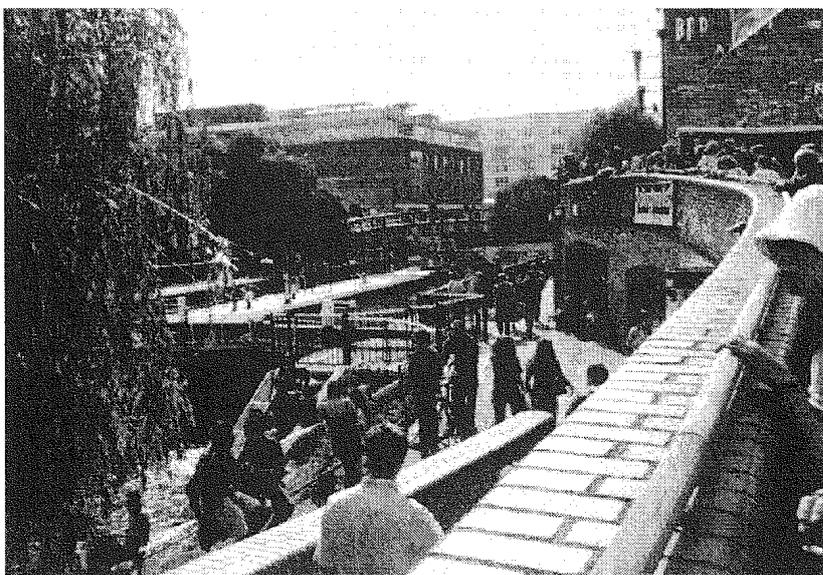
▲グランド・ユニオン運河の運河船「ナローボート」

ロンドンのカムデン・ロック。この運河はロンドンとバーミンガムを結ぶグランド・ユニオン運河で、昔はイギリスの大動脈であったと推測されます。

この運河は水質が良いとはお世辞にもいえないが、リバーウオーク観光船を観光客や生活者が利用できるように整備し、運河一帯の景観もベニス風景を取り入れることで川の魅力を引き出していました。

カムデントアウンの運河は閘門（こうもん）によって水位を維持しており、その閘門をカムデンロックと呼んでいます。

停泊している船には個性的なペイントが施され、鮮やかに咲き乱れる花々が飾られています。



▲観光客で賑わう運河のまち・カムデンロック

2. うなぎのまち・浜松

①うなぎ養殖の発祥の地

日本でうなぎ養殖が始まったのは、およそ 100 年前、ここ舞阪町や浜松市馬郡町などの浜名湖東南の湖畔であると言われています。

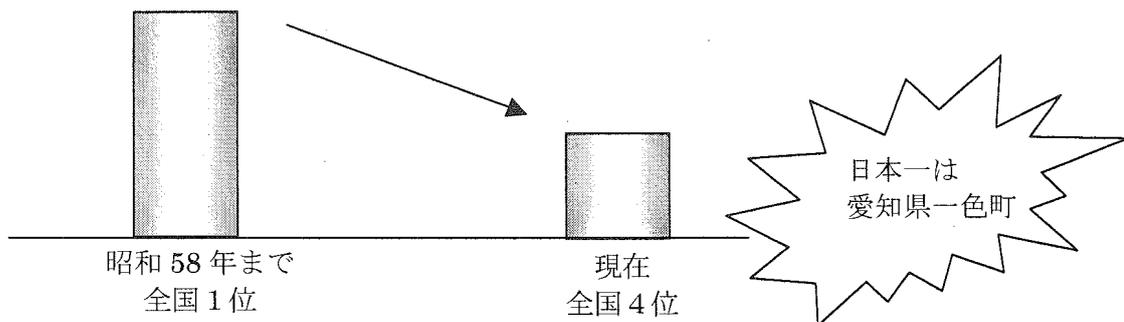
東京深川でコイ、フナなどを養殖していた服部倉次郎が、汽車でこの地を通りがかった際、ここはウナギを飼うのに適しているのではないかと考え、すぐに当地の地主の中村さんに相談して、明治 12 年に干田新田に 200 ヘクタールの養魚池を築造したのが、最初と言われています。

また、同氏は明治 30 年ごろに、静岡県 of 浜名湖畔に大規模な養魚池を設け、蚕の蛹をウナギの飼料とする養鰻業の発展の基礎を築きました。

②うなぎ生産日本一

養殖にとって大切な要因は『一みず、二たね、三餌料』。

静岡県のうなぎ養殖は、浜名湖を筆頭に吉田周辺などうなぎ養殖の先進県で全国一を誇っていました。しかし、昭和 58 年に愛知県に 1 位の座を渡し、現在では、鹿児島県、宮崎県に次いで全国第 4 位の収穫量になっています。



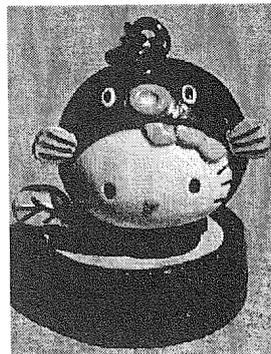
③浜名湖うなぎは全国ブランド

「浜名湖産」のうなぎは、日本のうなぎのブランドとして確立されています。浜名湖産のうなぎは、次のような理由から養殖が盛んになり、良質のうなぎが生産されるようになりました。

- うなぎの生育に適した高温の地下水を使用
- シラスうなぎ（稚魚）が、浜名湖・天竜川を遡上
- 生産者が誇りを持っており、365 日休みなしで養殖

さらに、うなぎのまちのイメージをより強く印象付けているものは、“夜のお菓子”のキャッチコピーとして全国ブランドとなった春華堂の「うなぎパイ」であると思われます。うなぎパイだけで年商は20.5億（H13.3）の巨大ブランドであります。

そして、“ハローキティ”の地域限定版は、ご当地のイメージをキャラクターに生かしていますが、この地域は、「うなぎキティちゃん」であります。



④うなぎの消費量日本一

地方都市うなぎの消費量を誇示する都市及びその他、浜松に匹敵する都市の鰻料理店の数を調べると、浜松は圧倒的に多いことがわかります。

都市別うなぎ料理店数

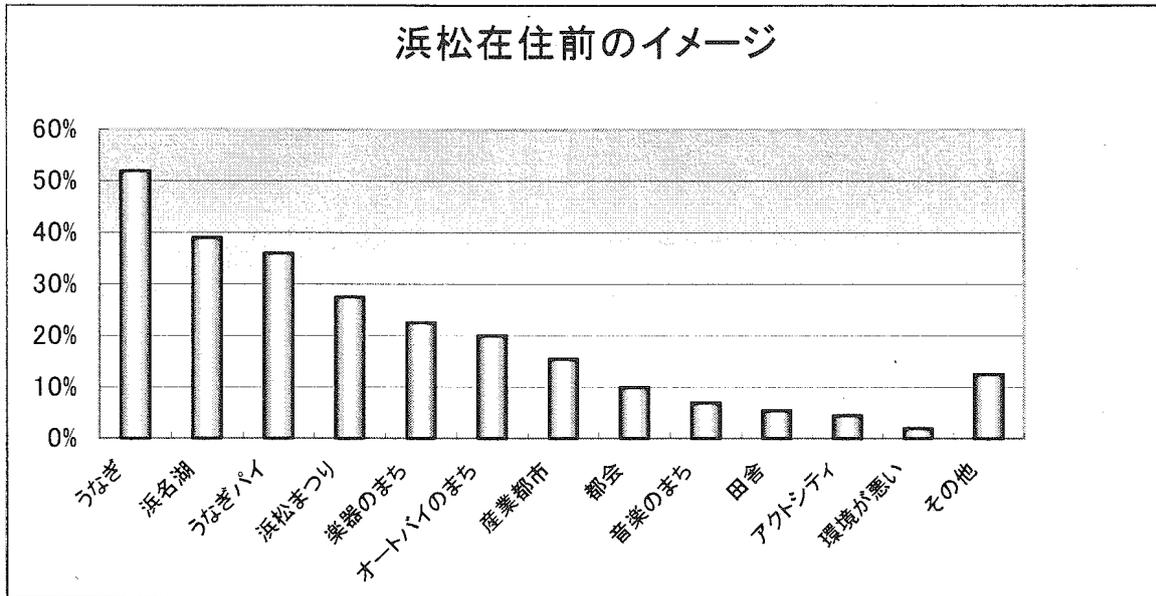
都市名	人口(万人)	うなぎ料理店	備考
浜松市	59.4	105	うなぎのまち、うなぎパイも有名
さいたま市	104.2	78	浦和市は、うなぎ消費量日本一
岡谷市	5.6	8	自称うなぎ消費量日本第二位
柳川市	4.2	19	柳川のうなぎせいろ蒸しは有名
豊橋市	37.2	37	三河地域は生産量が日本一
三島市	11.3	17	うなぎのまちづくりの先進地
沼津市	21.2	35	県東部の中心都市
静岡市	47.0	51	静岡県の県都
吉田町	2.8	24	人口1人あたり鰻料理店が多い
鹿児島市	55.3	40	うなぎ生産日本第二県
宮崎市	30.5	29	うなぎ生産日本第三位県
熊本市	65.9	35	
高松市	33.4	13	四国の中心都市
岡山市	63.2	7	
金沢市	45.7	6	北陸の中心都市
豊田市	35.4	10	
京都市	146.9	36	日本の古都
名古屋市	217.9	183	うなぎひつまぶしは有名

うなぎ料理店：NTTインターネットタウンページより

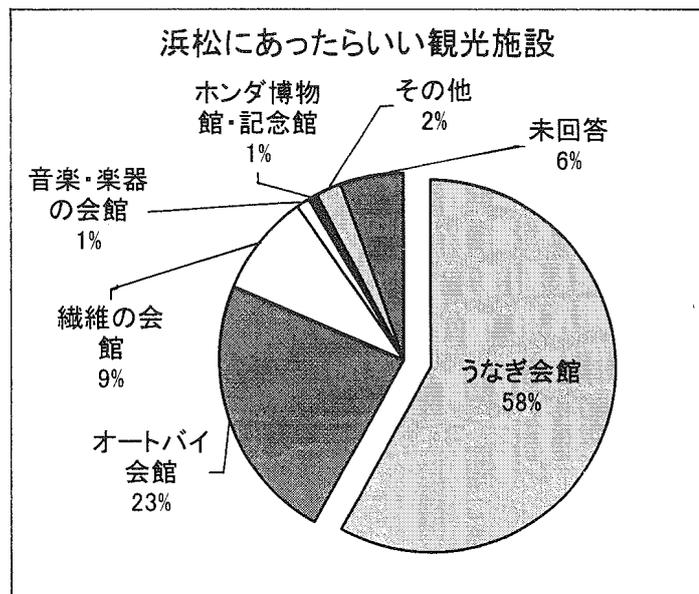
⑤市民の意識(浜松と言えば「うなぎのまち」)

市職員の研修目的に行っていた「平成12年度政策課題研修」の中で、よそから浜松に移り住んだ市民に浜松に住む前のイメージを持っていたかについて、アンケート調査しました。

その中で、浜松のイメージは、第1位うなぎ、第3位がうなぎパイでありました。



また、同調査の中で「浜松にあったらいい観光施設」を聞いたが、「うなぎ会館」が58%と、高い支持がありました。



よって、浜松らしさを生かして魅力あるまちをつくるためには、楽器、オートバイなどもあります。市民が感じている浜松のイメージ“うなぎ”を資源として活用することが、市民に受け入れられるものと考察できます。

3. 食をテーマにしたまちづくり事例

● 餃子とカクテルの街 宇都宮

宇都宮市は、全国一餃子の消費量が多いことから、餃子を通じて宇都宮を PR しています。

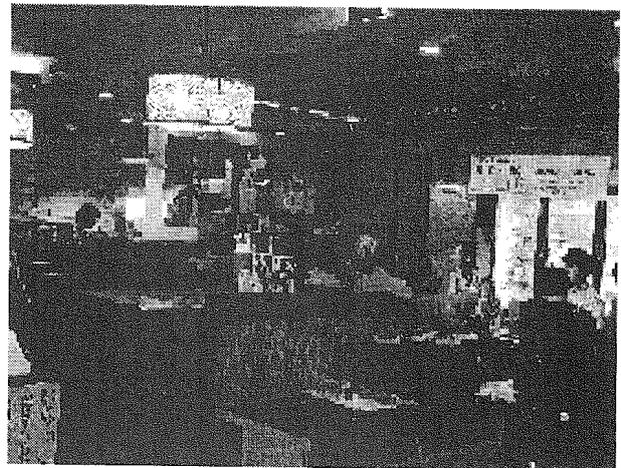
餃子のまちが全国に知れたのは、平成 5 年テレビ東京の山田邦子が出演する「おまかせ山田商会」で宇都宮餃子が取り上げられ、計 7 回の TV 全国放映がきっかけでありました。平成 5 年 7 月には、市内餃子専門店 38 店舗により「宇都宮餃子会」が発足し、イベントやキャンペーンを毎年実施してきました。

平成 10 年 10 月、宇都宮商工会議所が、宇都宮餃子会と協力して中心市街地の空き店舗に市内 13 店舗が出店する「実験店舗：来らっせ」を開設し、市外から多くの人を呼び込みました。



▲ 餃子のアンテナショップ「来らっせ」

その後、平成 13 年 5 月協同組合宇都宮餃子会をつくり、「来らっせ」の自主運営を始めています。



バーテンダーの技術が高い人材を多く排出している宇都宮市は、平成 10 年からは、市観光協会が「カクテルの街」として PR 及びイベントなどを実施しています。また、宇都宮カクテル倶楽部と称する愛好家の交流組織もできました。

☆取材協力先

浜松市 企画課
 浜松市 都市計画課、河川課
 浜松市 観光コンベンション課
 舘山寺温泉観光協会
 浜名湖養魚漁業協同組合
 財団法人 国際園芸博覧会協会
 宇都宮市観光協会
 平成12年度浜松市政策課題研究メンバー
 あつみ（うなぎ料理店）※うなぎライブラリーとなり得る昔の道具、器等
 有限会社 高柳工業所（手づくりカヌー工房）

☆参考資料

発行元	資料名
関東農政局静岡統計事務所	静岡農林水産統計年報水産編
国土交通省	ホームページ (PFI)
静岡県 (企画部、土木部)	ホームページ (新川大橋、湖の駅構想)
浜松市 (企画課)	第4次浜松市総合 第2次推進計画
浜松市 (観光コンベンション課)	もてなしのまち・浜松推進運動事業報告書
うなぎミュージアム	ホームページ (hamanako.com)
浜松市	平成12年度政策課題研究報告書
静岡新聞社	静岡新聞、ホームページ、会社年報
中日新聞社	浜名湖の遺産、中日新聞、ホームページ
全国フィルムコミッション協議会	ホームページ (FC)
近江八幡商工会議所	ホームページ (八幡堀、八幡堀を守る会)
やきそば学会	ホームページ
カレーの街よこすか	ホームページ (カレーの街)
NTT	インターネットタウンページ (うなぎ料理店)
グラウンドワーク三島	ホームページ (復元活動)
(財)横浜コンベンションビューロー	ホームページ (FC)
明文出版社・神谷昌志著	浜名湖・自然と歴史の文化
新居関所資料館	蒸気船現る近代浜名湖交通のあゆみ

※その他、海外の運河事例 (ホームページ) を参考資料とさせていただきました。